

# 近代建築防水100年を祝うと ともに、人材育成に重点



社団法人 全国防水工事業協会  
会長 **高山 宏**

新年明けましておめでとうございます。

昨年は台風や地震による自然災害が大変に多い年でした。年頭のご挨拶を申し上げるにあたり、被災地域の皆様にはこの誌面を借りてお見舞いを申し上げます。

さて、建設業界では生き残りをかけた厳しい競争が繰り広げられており、こうした中、昨年は国際的に商品市況が高騰、防水工事業界でも原油価格の高騰で防水材価格が上昇し、メーカー、施工業者双方にとって芳しくない状況にあり、憂慮しております。

このように建設業界を取りまく環境は大変厳しい状況にありますが、防水工事業界にとって今年是我国で近代的建築防水が施工されるようになって、ちょうど100年の記念すべき年に当たります。全防協では、「建築防水を志してきた私たちにとって、防水100年を盛大に記念することは、偉大なる先輩達の業績をたたえる意味において、極めて意義深いことである」と考え、本年9月7日に防水100年の記念式典の実施と、この記念式典に合わせた記念誌の編纂、発刊を行うことといたしました。記念誌の編纂・発刊につきましては協会内に記念誌編集委員会を設置し、「これを見れば日本の防水の歴史の大綱がわかる」という価値ある内容のものとするべく作業を進めております。防水工具、昔の施工風景写真、図面、手紙などといった貴重なものを保管、所有されている方、また、材料、工法等の開発や貴重な現場の施工に携わられた方、その話を聞いたことがあるという方がおられましたら、是非とも全防協までご連絡いただきたく存じます。

改めて申し上げるまでもありませんが、この近代建築防水100年の事業は単にアスファルト防水の100年の歴史を祝うのが目的ではありません。この100年における全ての防水工法に光を当て、私たちが生きている防水の世界で、祖父や親の世代が、あるいは先輩達がどんな想いで新しい材料・工法の開発、改良に取り組み、防水工事と向き合ってきたか、その熱い想いを記録し、それを次の世代に託したいのです。

近代建築防水100年の事業の他では、中央職業能力開発協会が整備を進めている職業能力評価制度整備事業への協力があります。防水工事業の包括的職業能力評価制度を整備するための「包括的職業能力評価制度整備委員会」に業界委員を送り、検討が進められており、昨年アスファルト防水、シート防水、塗膜防水の3工法についての能力評価基準が中間報告として取りまとめられ、引き続いて現在、セメント系防水、シーリング防水、FRP防水についての検討が進められております。中間報告では、当初私どもが考えていた以上にレベル別の遂行基準などが整理されました。全ての施工法を網羅した最終報告書の取りまとめには大いに期待しているところで、防水工事業界で必要とされる人材育成事業を全防協が展開していく上でも大いに活用してまいりたいと考えております。

合わせて技術、技能の向上にも引き続き注力してまいります。全防協では技能検定試験受検者用教本としての「防水施工法」の発刊、会員施工会社社員を対象とした「防水施工管理技術者」制度の普及、技能検定試験の正常実施への協力などの事業を行っておりますが、「防水施工法」については、この3月を目途に新版発刊に向けた作業が進行しております。「防水施工管理技術者」については、今年から資格の更新が始まりますので、それに合わせて更新講習を実施してまいりたいと考えております。

また、(社)建設産業専門団体連合会が検討を進めてきた「建専連 専門工事業総合補償制度」(長期性能保証制度、第三者賠償補償制度、上乘せ労災傷害補償制度からなり、この中から選択して加入できる)が近くスタートの運びとなります。本補償制度につきましては、全防協会員が安心して加入できる保証約款、特約条項となるよう、顧問弁護士も交えて慎重に建専連、損保会社との交渉を継続してまいりました。詳細についてはまだ詰めなければならない点が残っておりますが、それが決着つき次第、全防協会員を対象とした地区別の説明会が開催されることになると思います。全防協ではこの補償制度が会員施工会社に安心して施工できる環境を提供することにつながると考えておりますので、会員施工会社にとっては、説明会にご参加いただきたく存じます。

防水工事業界も建設投資の減少による経営環境の悪化、顧客からの品質向上やコスト縮減の要求の高まり等、引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、全防協は引き続き長期的視点に立って、防水工事業に従事する技術者・技能者のレベルアップに取り組み、防水工事業界の地位の向上と健全な発展のため努めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 防水工事の社会的な信頼性の向上を



北海道支部長  
濱野 信二

新年明けましておめでとうございます。

2005年の新春を迎え謹んで皆様にお慶び申し上げます。

昨年は日本列島に相次ぐ大型台風の上陸、大規模な水害、さらに新潟中越地震の発生など災害をもたらしましたが、北海道でも台風18号により道内各地でかなりの被害を受けるなど、厳しい一年でありました。

日本経済もここ数年設備投資や個人消費の動向などから今年は上向いてくるものと期待しておりますが、本格的な景気回復にはなお時間を要するものと思われま

す。北海道の場合、全国的な公共事業の削減に加え、道の財政立て直しプランの具体化や市町村等の厳しい財政事情から道内の公共事業は一段と減少する見通しにあり、防水業界にとりましても、さらに厳しさを増した経営環境になってきております。

当支部といたしましては、このような情勢に対応するためにも会員各社の防水工事に対する社会的な信頼性を高めることがますます重要と考えます。本年も「防水施工管理技術者」認定制度の普及活動や保証問題の取り組みなど経営の安定、技術力等の向上を目指し、支部会員を始め関係各位のご協力を得て事業の推進に努めて参ります。

最後になりましたが、皆様方のご多幸とご繁栄を心より祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

## 産廃問題にも取り組む



東北支部長  
直江 宏二

全防協の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は集中豪雨、相次ぐ台風の上陸で、全国的に被害が発生し、又更に北陸地方に於いては大型の中越地震により多大な被害が報道されました。被災された方々には心より御見舞い申し上げます。

景気の回復も未だ見えない東北地方ですが、昨年は東北で初めてのプロ野球チーム『東北楽天ゴールデンイーグルス』が11月2日に誕生し、久々に明るい話題が提供されました。

さて、昨年3月には支部活動の一環として、建設業界に非常に明るい弁護士の先生に「保証書の持つ拘束力と限界点及び保証書に記載する内容等について」というテーマで研修会が開催され、参加者は約40名という大人数になり大変好評でした。今年度は「産業産廃物について」のテーマで研修会の開催を予定しています。その他の支部活動としては各県防との情報交換、会員の増強、防水施工管理技術者認定制度の更なるPRを積極的に行っていく方針です。

全国の会員の皆さん、今年度は更にお互い力を合わせ、企業繁栄の為に頑張りましょう。

## 最大支部として事業を実施



関東・甲信支部長  
中村 正雄

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は世相漢字に「災」が選ばれるほど、国内外ともに本当に多くの天災、人災に見舞われた年でした。新年年頭にあたり、被災地域の皆様が一刻も早く平和な日常生活を取り戻すことができますよう祈念いたします。

さて、当支部は業界の発展に向け、本年もできる限りの事業を行って参りたいと考えております。基本的には全防協最大支部として「建専連・専門工事業総合補償制度」や「防水施工管理技術者認定制度」の推進など本部事業に最大限の協力を行うとともに、支部独自の事業を実施致します。

今年は是非、地域の実情の把握と意見交換の場である地域連絡協議会を開催したいと考えております。当支部が会員に名を連ねている建設産業専門団体関東地区連合会の活動が徐々に活発となり、関東建専連や関東地方整備局の会合などへの参加を求められるようになっております。このため、当支部として直接意見を求められる機会が増えており、従来にもまして地域の防水工事業界の現状を把握することが必要となっております。地域代表の方から忌憚のないご意見などをお伺いできれば幸いです。その他、研修会の開催や支部報「防水」の発行などの事業は、継続して実施して参ります。

最後になりますが、支部会員の皆様に当支部の活動を評価いただけるようこれからも努力して参りますので、今後とも支部活動にご支援、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

## 顧客の信頼に応え、社会的な評価を



中部支部長  
木下 一好

新年あけましておめでとうございます。

2005年の新春を迎え、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

新しい年を迎え、日本経済の不良債権問題もほぼ決着し、企業の構造改革もようやく効果が出始め、特に大企業の企業収益力は、かなり回復したと思われまます。しかし、政治の部分は、相変わらず官主導で古い政治体質であり、ポイントとなる個人消費が冷え込み、経済環境は、まだまだ厳しい状況にあります。

特に建設業の専門工事業者にとって、まだまだ続くであろう競争の中、品質に見合ったコストでの受注が出来ない状況で、元請問、下請問での価格競争も限界にきているように思います。更に、少子化の問題、団塊の世代の退職に伴う2010年問題と、先を見ても色々と大きな曲がり角があるように思います。

そういった環境の中で、活路を見い出すために、それぞれの企業が顧客のニーズ、ウォンツを考えた差別化とは何かを探り出さなければなりません。顧客の信頼に応えると同時に、社会的な評価を得るために、業界全体として諸々の整備も必要であり、全防協の諸事業に対して、会員各位のご理解とご協力をお願い致します。

皆様の益々のご活躍を祈念して新年のご挨拶といたします。

## 体質強化、社会的地位向上を目指す



北陸支部長  
北川 栄一

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、明るく穏やかな初春を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年平成16年は、北陸地方は集中豪雨、台風、地震と、多くの災害に見舞われた異常な年でありました。その折には全国の皆様より、暖かい励ましのお言葉や、心温まる義援金など頂戴致し誠にありがとうございました。日本赤十字社を通じて皆様の善意を届けさせていただきました。一日も早い被災地の復旧を祈るばかりであります。

こうした中で、建設産業は、建設投資の低迷による建設市場の縮小、受注競争の激化、金融機関の不良債権処理の加速等により、きわめて厳しい経営環境に置かれ、特に、我々防水工事業者を含めた専門工事業者は、生き残りをかけた経営上の選択を迫られているのが現状であります。

全防協北陸支部は、こうした状況を打破するためにも、一致団結して、各会員企業の体質強化、社会的地位の向上を目指して努力していく所存であります。今後とも、皆様方のご支援、ご協力を、是非、お願い申し上げます。

今年が皆様にとって明るく、幸せな一年となりますことを祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

## 防水工事業者の知名度アップとレベルの向上を目指して



近畿支部長  
玉木 道廣

平成17年を迎え、会員の皆様には新春のご祝辞を申し上げます。

昨年は異常気象で、日本列島への相次ぐ大型台風の連続襲来、新潟中越地震と各地へ大きな傷跡を残しました。近畿圏でも瀬戸内海沿岸の高潮による被害、北近畿地区の水害等大きな打撃を受けました。強風による被害も想像以上に多く、連続の風雨も重なって工事にも相当の影響がありました。これら工事は我々に寄与した面もありますが、被災地の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

さて、我が国の経済は昨年から景気が回復してきたといわれていますが、確かに一部の分野は当てはまっていますが、建設投資はマイナスであり、平成4年度比では62%の水準であります。従って、防水業界を取り巻く景気環境も、厳しさが増すばかりであります。我々業界についても、従来体質から脱却を図り、企

業体質の改善・刷新が叫ばれる所以であります。

このような環境下、会員各位のご協力を得て、平成16年度の近畿支部の活動（予定も含む）として次のようなものが挙げられます。

- ・支部通常総会の開催：平成16年6月
- ・新規会員の勧奨：2社の加入（有）トータルクラフト、飛鳥工業
- ・16年度前期技能検定FRP防水実技試験：7月、於：ポリテクセンター関西
- ・16年度前期技能検定学科試験研修会：8月開催
- ・防水施工管理技術者認定試験：①10月認定試験実施協力（大阪会場）  
：②10月研修会開催協力
- ・近畿支部ホームページのリニューアル：11月より
- ・「防水きんき」20号、21号の発刊：8月及び平成17年1月
- ・16年度後期技能検定学科試験研修会：平成17年1月開催
- ・パソコン講習会：平成17年2月予定
- ・電子入札基礎勉強会：平成17年6月予定



FRP防水実技試験のもよう

全防協の活動も、会員各位のご協力と役員一同の努力により、ようやく目に見えるものになりつつあるように思われます。本年も全防協の活動にご理解頂きますと共に、会員各社の益々のご活躍、ご発展を祈念致しましてご挨拶と致します。

## “防水”という絶対の技術を持って



中国支部長  
森山 守

平成17年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年中には、中国支部の活動に対しまして格別のご指導ご支援を賜わり誠に有り難く、心より御礼申し上げます。

今年こそと期待しました昨年も、我々の環境は全く変化なく、更に厳しい状況に追い込まれてまいりました。産業天気図30業種の中で唯一建設業は大雨で、他の20業種は晴れ間のある天気という厳しい天候は、一向に回復の兆しがありません。

更に、今年の景気の見通しによると、好況の業界も落ち込みが予測されております。その原因には、石油の高騰による原料高、為替価格の円高、IT業界の沈静化、等明るい条件はありません。

平成4年には84兆円もあった建設投資額が、50兆円を割り込む昨今になっても、建設業の登録業者が減少するどころか増加の傾向にあるという不思議な現象も理解に苦しみます。

全国の地域別の景気図によると、好況トップの東海地区は着実な足取りが続き、最悪の状況にある北海道地区は大苦戦が続き、当地中国地方も下位でのランク争いの現状です。

以上、悪い条件ばかり取り上げれば、新しい年の幕開けからお先真っ暗で今年は終わってしまうことになります。

しかし、明るい材料もあるのです。それは、リニューアル・リフォーム市場の将来予測です。2000年に26兆円が、今年には28兆円、2015年には32兆円の市場になると予測されております。この大きなマーケットを如何にして取り込むかが、生き残り戦略の大きなテーマだと思います。ただ、リニューアル・リフォーム工事の受注実績を見ると、床・壁・天井工事がトップで防水工事の実績は大きくありません。取り組む問題はここにあると思われれます。いつまでも、元請けゼネコンの協力業者の役割では、大手ゼネコンの業績回復の生け贄の役割から脱出が出来ません。

防水という絶対の技術を持つ我々は、もっと自信をもって、団結して技術の安売りを排除しなければ、

防水業界の未来は存在しません。

今年は、確固とした、自信と誇りをもって、明るい将来のために、全力投球をしなければなりません。

年頭に当り、会員各位のご繁栄とご活躍をお祈りし、ご奮闘あることをご期待も申し上げます。

## “確かさ”で顧客のニーズに応える



四国支部長  
河野 通昭

明けましておめでとうございます。

昨年は度々の台風、重ねて地震が災害をもたらした多くの方々が被害を受けました。災害に遭われた方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

さて我が業界はここ数年良い年でと期待しての発進を繰り返して来ておりますが、年々経営環境は厳しさを増し、世間の風は公共工事が悪の如く叩かれ、大型プロジェクトは全てお金の無駄遣いであるかの如く一般の人達に思われています。

なるほど、一部には最近表面化して負の話題の元を成している採算や効果を見失ったリゾート施設等が目立ち、社会資本整備事業である工事が第一次産業などへの経済的波及効果や潜在的雇用と、これに伴う専門技能者の育成に多大の効果をもたらして来た等の良い面がかくされています。公共工事の全てが悪でないことは事実であり、一日も早くこのことに気付いて元に戻ることを望む次第です。

大手スーパー・コンツェルン、そしてミサワホームまでも再生機構による支援を必要とする結果が出ています。何故この様になったかは当時の関係者は予測出来たはずですが、諫める勇気を持ち、見て見ぬふりをしないことを痛感し、他山の石とせず、今年も会員相互の結束を強くし、コミュニケーションを大切に、専門工事業者として「確かな経営、確かな技術、確かな品質の確保」で顧客のニーズにお応えすることを心がけ邁進する所存です。

## 認定資格制度に期待



九州・沖縄支部長  
青山 英治

2005年の新春を迎え、(社)全国防水工事業協会の会員皆様方に謹んで御祝辞を申し上げます。

2004年より日本経済はゆるやかな上昇傾向との指標が示され、少し明るくなれるような期待感が出て参りましたが、私たち専門工事業者には、その期待度はもう少し先になるのではないかと思われます。建設元請業者の2004年9月中間決算状況では軒並み増収増益傾向で特にスーパーゼネコンは好調な業績で推移していると聞いております。

私たち防水工事専門業者は、まだまだ厳しい自助努力を敢行していかねば生き残れないのが現実ではないでしょうか。

しかしその中で、防水施工管理技術者Ⅰ種・Ⅱ種の認定試験も昨年第2回を実施して徐々に有資格者も増え、防水業界の将来と社会的地位の向上につながればと期待いたします。

また、防水工事保証契約に関する件では、2003年6月に当協会が取りまとめた「防水工事保証契約に関する考え方」の通り、①策定の基本、②保証の対象、③保証期間、④免責事項、⑤保証書の提出先等の問題について、(社)全防協としての基本的な考え方を持ち、(社)建築業協会の担当諸氏と連携を取り明確にしていければと思います。

建専連専門工事業総合補償制度の中で、防水長期性能保証制度については、本年3月までに具体化していただきたく実施されることを切望いたします。

最後になりましたが、(社)全防協会員の皆様方の益々のご健勝と企業発展を願ひまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 防水100年記念講演会・祝賀会を盛大に開催

## 「日本の防水—防水工事 100年のあゆみ」を発刊

当協会は昨年9月7日、近代建築防水100年を記念して講演会・祝賀会を東京・千代田区のホテル・グランドパレスにおいて開催した。当日は来賓を含め約250名が参加し、盛況を呈した。また、記念誌『日本の防水—防水工事 100年のあゆみ』を併せて発刊した。

### ■記念講演会

開会に先立ち高山会長は「数年前から、本年が近代建築防水100年にあたることを小池先生に指摘されていたが、これもひとつの区切りと捉え全防協の事業の一環として本日の講演会・祝賀会の開催に至った。私達、防水専門工事業者は建物を守るために真摯に取り組んできた。本日、100年の歴史に思いを馳せるとともに、次の100年に向けて邁進したい」と挨拶した。講演のタイトルは次の通り。内容については別掲。

「建築防水技術100年の系譜」講師：東京工業大学名誉教授・小池迪夫氏

「防水工事業の沿革と技能検定」講師：(社)全国防水工事業協会常任理事・丸山功氏

### ■祝賀会

会場には会員、特別会員、来賓など約250名が参集し、100年の歴史の栄誉と喜びをともに分かち合った。

高山会長はその挨拶で、講演会と祝賀会の開催、記念誌の発行など、防水100年記念行事を盛大に開催できたことを感謝し「高度な技術と機械が主役の時代にあっても、日本の建設業、そして防水業が伝統的に培ってきた“匠の心”をもって同業者同士が切磋琢磨しあい、経験者の志と技が後進に伝承され、職能集団としての自立性と自発性を高め、根付かせることで、我が防水業はこののち幾星霜を経ても、その地位を建設業界に確立できるものと信じる」と心情を述べ、最後に「この記念すべき防水100年を、皆様と盛大にお祝いすることにより今後の防水業界の明るい未来への展望が開

王国防小工事業協



挨拶する高山会長



講演する東工大・小池名誉教授



講演会会場のもよう

け、さらなる発展、活性化につながることを切実に望んでいる」と結んだ。

引き続き、国土交通省総合政策局・大森雅夫官房審議官と東京工業大学・田中享二教授が来賓代表として祝辞を述べた。大森氏は「防水は快適な生活を維持するために欠くことのできないものである。今後は今以上に耐久性、経済性が求められるようになるだろう。全防協においてはこの防水100年を機に、さらなる技術の向上と人材の育成に努め、我が国の建物を守り続けてほしい」と語った。田中氏は「今日は全国の防水に関係するすべての皆さんにおめでとうと言いた

い。そしてこの100年を築いてきた方々に敬意を表したい。学会大会での防水分野の論文発表は年々増加し、活性化の傾向を示している。また、コンクリートの研究分野では、ひび割れを抑止するのではなく制御していく方向である。この意味するところは、ひび割れにより発生する弊害は防水に委ねられるということになる。環境問題も含めて防水に科せられた課題は多い。この100年は通過点であり、次の100年に向けて、次世代に技術を伝えていきたい」と語った。

その後、司会の吉田雅常任理事により多くの祝電が披露されたが、濱野信二理事からは米国と中国の防水友好団体からの祝電が読まれ、華を添えた。

パーティーは木下彰久副会長の乾杯の発声で幕を開け、木



祝賀会会場のもよう。壇上は挨拶する高山会長

下一好副会長の「環境は厳しいが、希望だけは忘れずに」との挨拶で閉会となった。

## 日本の防水—防水工事 100年のあゆみ—

### ■目次

- 防水100年をむかえて／高山 宏 (社) 全国防水工事業協会 会長)
- 「防水100年記念誌」の発刊に寄せて／竹歳 誠 (国土交通 省総合政策局長)
- 近代建築防水工法のルーツを探ねて／小池迪夫 (東京工業 大学名誉教授)
- 100年前の建築事情／松本洋一 (記念誌編纂委員会コーディネーター・有) 松本洋一建築事務所)
- 全防連・全防協の歴史と設立の経緯／記念誌編纂委員会
- 「防水施工」技能検定の歴史／丸山 功 (社) 全国防水工事業 協会常任理事・技能検定特別委員会委員長)
- 【インタビュー】それぞれの防水を語る
  - アスファルト防水：金子俊雄・高岡初男 (元・高山工業(株)、 古屋隆司 (奥山化工業(株))、濱野信二 (株) 濱建)、芝 吉朗 (元・(株) イーテック)
  - セメント系防水：藤森脩一 (株) ケルビン)
  - シート防水：大前治敏 (元・三ツ星ベルト(株))、邊見 仁 (高 山工業(株))
  - ウレタン防水：三浦慶政 (株) ダイフレックスホールディン グス)、四家正勝 (ヨツヤウレタン(株))
  - 外壁防水：杉本憲央 (株) メイコウ)・副松 勲 (元・東亜合 成(株))・久保田淳一 (NBK)
  - シーリング防水：苅谷 勝 (株) マサル)
- 【座談会】ベテランたちが語るアスファルト防水今昔
- 年表でみるわが国の防水工事業 100年の歴史
- 漏水で悩んだ建設技術者から見た“防水”の100年／鶴田 裕 (元・大成建設(株) 技術研究所)
- 南極昭和基地の建物の防水／梧原幸八郎 (社) 公共建築協会 業務管理部長兼調査第1部長)
- 日本建築学会・防水PDテーマに見る—戦後防水技術の動向

### 【座談会】次世代リーダー大いに語る

- 司会・苅谷 純 (株) マサル代表取締役社長)
- 相臺志浩 (日新工業(株) 生産部次長)
- 中村陽祐 (中村瀝青工業(株) 常務取締役東京支店長)
- 吉田 了 (吉田建設工業(株) 常務取締役)

### 防水技能者・管理者育成の歴史

- 田島防水工事管理者養成所
- 日本アス・日新防水技術者養成校
- 全アロン屋上・外壁調査診断士講習
- ケイ酸質系塗布防水材施工士講習
- サラセーヌカレッジ
- 簡中DN職業訓練校
- 東西アス防水技能員養成所

### 各協同組合・団体の概要

- 防水工事団体：全日本建設防水協同組合協議会 (東日本建 設防水協同組合、西日本建設防水協同組合)、全国アスファ ルト工事業協同組合連合会 (東部アスファルト工事業協同 組合、西部アスファルト工事業協同組合、九州アスファル ト工事業協同組合)、日本シーリング工事業協同組合連合会、 外壁防水施工団体協議会
- 防水メーカー団体：日本シーリング材工業会、日本ウレタ ン建材工業会、合成高分子ルーフィング工業会、日本外壁 防水材工業会、ケイ酸質系塗布防水材協議会、トーチ工法 ルーフィング工業会、FRP防水材工業会、アスファルトルー フィング工業会、ポリマーセメント系塗膜防水協議会

### 【鼎談】日本の防水—昨日・今日・明日を語る—

- 田中享二 (東京工業大学建築物理研究センター教授)
- 高山 宏 (高山工業(株) 代表取締役社長)
- 苅谷 純 (株) マサル代表取締役社長)

### 全防協の取り組み

- 特別会員一覧
- 社史・記念誌一覧

# 建築防水技術100年の系譜

東京工業大学名誉教授 小池 迪夫

## 1. 近代建築の導入

ご紹介いただきました、小池迪夫でございます。本日は、「建築防水100年」という記念すべき行事に講師としてお招きいただきまして、誠に光栄に存じます。どういうことに相成るか本人は自信はないんですけども、できるだけ分かり易くお話を進めさせていただきたいと思えます。

何しろ100年前というと、そのころに生まれた人は多分ここにいらっしやらないと思えますけれども、どっかにはいらっしやる筈です。日本が戦争に負けて60年、それですら歴史の話と理解している人が増えておりますから、100年前の話をするというのは、大変退屈な人が大勢いらっしやるんじゃないかなと思っております。時間が限られておりますので、早速……。私は無駄話の多いタチでして、無駄話を封じられると話が先に進まないことがあるんです（笑）。

話のはじまりは1854年ですから、今から151年前です。江戸幕府とアメリカが開国の条約を結びましてから、横浜とか長崎に外国人がいっぱい来まして、その中に少なくとも十数名の建築設計士がいました。東京大学の藤森先生が書いてるんですが、どうも藤森先生はこういう人たちが好きでないらしくて、「怪しげな人が来た」と書いてあります。こういう人たちが設計した建築を日本の棟梁がまねをして、怪しげなる西洋建築を造った……そこまで藤森先生は言わなかったんですけど、怪しげだと私が勝手に言っただけでございます。

1877年、明治10年ですが、イギリスからジョサイア・コンドルがまいりました。これは、ヨーロッパの方にだれかい人を推薦してくれと頼んで来日した建築家です。あっちの人は勝手に来た。こっちは明治政府から頼まれて工部大学校の教員として来日しました。それだけ格が違うわけです。そ

の前にもお雇い建築家がドイツから2人来ております。明治5、6年だろうと思えます。明治7年に司法省の建物を設計しています。コンドルは明治9年の末か10年に来日しました。開校時誕生日前だとすると24歳でした。

工部大学校で初めて学んだ学生が辰野金吾以下4名なのですが、辰野金吾は先生のジョサイア・コンドルよりも2歳年下です。中には同じ年の人がいるんです。1歳年下、2歳年下、もう1人は分からないんですが、要するに寺子屋みたいなもので、4人が、多分先生1人で設計事務所みたいなことになっていたんだろうと思えます。

この辰野金吾という人は偉い人でして、卒業して4年ほどイギリスへ留学していて、帰ってきたら工部大学校の教授になられた。何せ私が教授になるのに23年かかっていますから。この辰野が中心になって1886年に造家学会というのをつくりました。これが、今の建築学会の始まりなんです。翌年の1月から『建築雑誌』という、今としてみると普通名詞のような機関誌を発行しました。

## 2. 初期の建築防水

何しろ150年を50分でお話するには、1分間に3年をお話をしないとイケない。取り急ぎ防水の話に入りたいと思えますが、コンドルの設計で、工事の内容が詳しく出ている記録に、1892年竣工の海軍大臣官舎があります。屋根は防水ではありませんが、構造はれんが造りで地下の外壁にアスファルトを塗ったと書いてあります。アスファルトはもちろん天然でございます。日本では秋田県辺りで産出したんですが、どうもこのころのアスファルトは輸入物であったろうと思えます。使用したのは村岡坦というアスファルトの大家の分類ではソフトアスファルトで、アスファルトの成分、厳密



に言うと、ビチューメンの成分が50%ぐらいのものだと思われれます。これを地下外壁に塗りました。

この時代になりますと、コロニアル風と称する住宅ができてきたようです。日本人が設計したものもかなりあるみたいですが、そのバルコニーですとか、柱廊と称する開放廊下みたいなものにハードアスファルトを用いているんです。これはビチューメン含有量が15%以内のもので、今の言葉で言うとマスチックアスファルトというのではないかなと思います。

これが雨漏りがするのでどうしたらいいかという質問が、『建築雑誌』の1895年の1月号に出ておりまして、時の識者がこうしたらいいぞという回答を書いています。考えてみると、マスチックアスファルトなどを木造下地に塗っても、うまくいかないのではないかなと思います。

先ほどの年代より古くからと思いますが、天然アスファルトを溶かして塗るということがずっと続いてきたわけです。その後にアスファルトルーフィングと組み合わせるようになりました。それが私が考える近代建築の発祥ということになるわけですし、それから現在まで100年経過しているのです。

### 3. アスファルトルーフィングを積層する 防水の登場とその後

ルーフィングとの組み合わせになりますと、ルーフィングの登場から話を進めないといけません。1889年にアメリカからラバロイド・ルーフィングというのが入ってまいります。これが一番古いかどうか私は自信がありません。ほかにサーティンティードとかいろいろありますから、どれが古いかあまり自信がありません。

このラバロイドという名称の会社はイギリスにできました。モスクワにもできたということですが、現在では両方ともなくなりました。イギリスだけずっと長く続いていたのですが、その会社の知人であるボナフォント氏によると巨大なゼネコンに吸収合併されたということです。

中村達太郎は工部大学校の4回生で、1882年に卒業して10年たったころ、イギリスへ留学し、そこからアメリカへ行ったりして、「海外建築茶話」を『建築雑誌』に寄稿しております。そこで砂利屋根ですとか新しい工法についてコメントしております。日本でも手作りのルーフィングが以前から



あったんじゃないかと思いますがけれども、1897年の『建築雑誌』に機械生産を自慢した国産土居葺紙の広告があります。近代建築防水登場の少し前のことです。

1903年に、米国製のマルソイド・ルーフィングの広告があります。このころになると、この中村達太郎の記事その他から陸屋根に対する関心が高くなっておりまして、何とか陸屋根をやってみたいと思う人が現われました。

1904年に大阪で木造の理髪店の道路側に屏風みたいな木質のファサードを付け、陸屋根風に見せて「これは素晴らしいデザインである。東京にはないだろう」って、大変自慢した紹介記事があります。そんなことをしてまで、陸屋根を一遍やってみたいなど大勢の人が思っていたらしい。

そこで登場するのが1905年の大阪瓦斯でございます。細かいことをお話している時間はありませんが、これがどうも最初らしい。最初らしいということは、『建築雑誌』の記録ではこれが一番古いということと、ここでやりましたのが極めていじましく、3階建ての本館の横に平家の下屋といいますが、張り出しを造って、その屋根を防水してみたのです。設計者と相談して、特にお願いをしてやらせてもらったんじゃないかなと思います。これはマルソイドで、藤原商店が輸入したものです。

ところが、すぐにそれじゃ私もやってみようということにはならなかったらしい。それでも陸屋根をやりたいということで、東京銀座の伊東屋という文房具店の屋根は「亜鉛引き鉄板瓦棒葺き陸屋根」と記録されています。何としてでも陸屋根という名称を使いたかったんじゃないかなと思います。その後だんだんと陸屋根建築が出てまいりまして、1911年というのは明治の終わりなんですけど、そのころになりますと、陸屋根の建築を造るんですけれども、その屋根の防水は、前にありましたハードアスファルトを塗るとかというの

が増えてまいりました。

#### 4. 大正期 (1912～1925)

大正に入りますと、これは明治時代の終わりの設計だと思いますけれども、明治と大正の境目ごろに着工して1913年に竣工した陸屋根建築がいくつかあります。ハードアスファルト防水が多い中に、レインフォーストアスファルト防水が登場しました。これは横河工務所が設計をした八十二銀行本店（東京・高輪）です。

面白いことに、防水はハードアスファルトなんですけど、辰野金吾が設計した大阪・曾根崎の百三十銀行の支店があるんです。辰野は東京駅を設計した人で、ああいう重厚な設計が得意な人なんですけど、その人でも陸屋根を設計するようになった。ということは、陸屋根建築がだんだんと社会で認められるようになったのが、このころではないかなということなんです。

このころ、日本のアスファルト・ルーフィングは品質が悪いから、日本建築用製紙という会社がアメリカから技術者を呼んで、アメリカの機械で生産を指導いたしましたから、品質のいいものになったのではないかなと思います。これは大正でいうと2年ですが、なかなか日本製のルーフィングは世の中で使ってもらえなかったようです。何せもう壊した丸ビルでさえも、大正12年、1923年にできている丸ビルでさえも、外国人の設計なんです。ゼネコンもアメリカです。大正の終わりでもそういう時代ですから。なかなか日本のアスファルト防水材料は使ってもらえなかったということがあるようです。

1914年から1918年、第一次世界大戦がありました。日本もこれに参加しまして、このときは日本は勝ち組だったんですね。このとき負けていたら、その後にはばかな戦争を始めなかったんじゃないかなと思います。でも、分かりませんね。このとき負けたドイツがまたやりましたから、何とも国の偉い人がやることは理解できません。

このころから景気がよくなって、また、景気が悪くなったんです。第一次世界大戦が終わった後でも景気がよかった業界もあるようですが、アスファルト防水の関係はどうもその辺が分からないんですけれども。この景気が終わったころから、日本建築用製紙に刺激されたのか、現在の田島ルーフィングや日新工業の前身が創立しております。

1920年から、このところ物議を醸しておりますが、現在の国会議事堂の建設が着工され、昭和に入って竣工しております。1923年に関東大震災が発生いたしました。先ほどお話しした丸ビルもこの年にできておりますが、無傷だったというようなことを言っている人がいますけど、実は違うんです。この1年前に浦賀水道辺りを震源地とする地震があって、建設中にかなり壊れたんです。これは鉄骨造だったんです。これを補強するために、鉄骨のまわりに鉄筋コンクリートを巻いて補強した。それが鉄骨鉄筋コンクリートのはしりではないかと勝手に思っております。その補強の効果があって、関東大震災のときにはほどほどの耐震性を示したということのようでございます。

#### 5. 昭和初期から太平洋戦争終結まで

昭和に入りますと、1928年に現・国会議事堂の第1期防水工事が施工されました。このころは日本製の材料に信用できるのがないと当局が考えたのでしょう、アメリカのジョンスマンビルの材料を使ったようございます。その中でなぜか木綿の網状ルーフィングが防水仕様の中で一番威張っているんです。何でこれを使ったんですかって古い人に聞いても、はかばかしい返事がなかったんです。私はアメリカでやっているから使ったんだと思っております。

1931年、満州事変が勃発いたします。この年に私は生まれました。現在、74歳でございますが。この年、東京大学工学部1号館が着工いたしました。ところが、戦争が始まったものですから、2年ほど次の予算が来なかった。コンクリートが裸のまま置かれていたら、ビリビリと亀裂が入った。時の長老の内田祥三先生、その後、東大の総長にまでなった偉い先生が建築学科のボスでして、これは大変な問題であるぞよという認識を持ったというお話があります。この話だけしていったって10分ぐらいかかっちゃいますから、先に行きます。

国会議事堂の第2期から国産品を使いました、ということをお話するのを忘れていました。1936年に国会議事堂が竣工しております。そのころの防水がそれまでもっていたかどうか知りませんが、十数年ほど前にやり替えております。今は新しい防水でヘリコプターからよく国会を映しますが、屋根が非常にきれいになっていますよね。

1937年、昭和12年に日中戦争が勃発。当時、支那事変と

言っていましたが、いつの間にか日中戦争になっています。私の理解では、戦争というのは宣戦布告して始まる武力紛争であると昔は言っていました。近年は宣戦布告がないうちに始まってしまふ。朝鮮戦争も、ベトナム戦争やイラク戦争も昔風に言えば事変なんです。太平洋戦争(昔は大東亜戦争と言っていました)で宣戦布告より真珠湾攻撃のほうがちょっと早かったのが、アメリカに怒られてたわけですけどね。それが今もって日本人は信用できないというふうに言われている原因です。

## 6. 昭和 20 年代 (1945 ~ 1954)

さて、日本は戦争に負けました。終戦直後は民間の工事はないけれど進駐軍の工事はあったようです。材料支給で工事をして割合いい工賃をもらったと、三星産業の岩崎一さんは言っていました。朝鮮戦争が昭和25年から28年まであり、そのおかげで日本は経済がうまくいくようになったんです。ここで、悲しい事件が起こりました。昭和26年、横浜の桜木町で車両火災がありました。当時の車両は屋根下地が木造で、悪いことに車両の間が行き来ができない。窓はというと、横桟木が打ってあってそこから脱出できない。ドアも自動ドアで開かない。100なんぼの人が焼け死んでしまった。これ以来、自動ドアはコックを開くと手で開くようになりました。

昭和15年か16年から、外国の工事が立派なものですから、日本建築学会が標準仕様書というものをつくり出したんです。それが戦争で中断しておりましたが、戦争に負けた後、25年から再開いたしました。防水工事の検討が始まったのは26年で、27年に「第1節アスファルト防水工事(案)」が公表されました。不思議なことに案のままずっときたように思っているんですけれども。これが案が取れたのはずっと後のことです。

ジョイント防水の話に入ります。米国製の油性コーキング材・バルカテックスが輸入されたのは1953年ごろです。これが契機となって建築の工業生産化が始まったんです。建築部品を工場生産して現場で組立てるとどっかに継ぎ目ができます。継ぎ目を埋める材料が要るぞということです。そのころ、塗膜防水として、アメリカからネオプレン・ハイパロンの材料が輸入された。

昭和29年、1954年、今では東急百貨店東横店と呼ばれて

おりますが、渋谷駅の東横会館では外装を軽量骨材コンクリートのプレキャスト板で造って、そのジョイントに油性コーキングを詰めました。

もともとこれは昭和10年代に下のほうができておりました、法律が変わって、高さ45メートルまで周りの空地が広ければ、造ってもいいというようになりました。そこで既にできている基礎の上に45メートルの上屋を乗せるために軽くしないといけないということで、軽量骨材コンクリートのプレキャスト板を使ったわけです。

## 7. 昭和 30 年代 (1955 ~ 1964)

昭和30年代、1955年から10年ですけれども、油性コーキング材が国産化されたり、コンクリート下地の亀裂でアスファルト防水が破断するという現象が発見されるようになったりしました。アスファルト防水の関係者は、コンクリートが割れるとは夢にも思っていなかったんですね。地震がないところに家を造ったつもりが、地震が来たようなものですから。これ以来、防水層を考える道筋が1つ余分になったわけです。

そのころ、化学工業が生産するカタカナ名前の材料、酢酸ビニル樹脂のエマルジョンの塗膜防水が出てまいりました。昭和30年ごろです。これがまた非常に悪い結果で、塗るだけでいいぞと言ったのが、しばらくしたらもう流れてなかったとか、寒冷紗だけ残っていたなんていうようなことを言われているものです。いずれにしても、塗膜防水なるものは、こういう冒険主義的な材料から始まっているわけです。

シート防水が始まったのは昭和32年ごろです。ドイツから、当時は西ドイツですけれども、ポリイソブチレンのシートが輸入されまして、1961年に国産化されたんですが、どうもこれはうまくいかなかった。もともと技術導入したのは地下防水用のシートでして、それを市場の広い屋根に使って失敗しました。やがてこれは撤退するということになりました。

1960年、昭和35年ごろに、タイヤのくずなどの粉末をアスファルトに練り込んだゴムアスを下地のすぐ上を使って、下地に亀裂が入っても、その影響が上部に及ばないようにした工法が開発されました。このゴムアスは悪いことに、溶かしている間にオーバーヒートしますと、べたべたになって立

ち上がりがうまく止まっていなかったという初期のクレームもあったようです。

1961年に油性コーキング材が「建築用コーキング材」という名称でJISができた。中身は油性コーキング材なんです。そのころにはもう世の中は変わっておりまして、アメリカから輸入されたポリサルファイドシーリング材が大阪の日本板硝子のガラスカーテンウォールに使われています。これからシーリング材の時代に入ったわけです。コーキングをシーリングと言ったのは、新しい機能の材料は新しい名前で売ったほうがいいということなんです。もう少し技術的に考えると、ジョイントの拡大縮小に耐える性能を有するものをシーリング材と称した訳です。今もってコーキング材と言っている人がいます。なかなか言葉というのは直りません。

1962年に加硫ブチルゴムシートが上市されましたが、間もなくオゾン亀裂が発生しました。最初からオゾン亀裂だと思ったわけではありません。大気中のオゾンは、昔は山とか海に多かったのですが、それは20キロとか30キロぐらいの上空で、酸素が紫外線の作用でO<sub>3</sub>になって、それが対流で下に下りて来たものですが、このころのオゾンというのは、自動車の排気ガスに紫外線が作用するとできるということが分かってきました。1963年にロサンゼルスですごいスモッグが起きて、非常に大勢の人が健康を害したということでした。

昭和30年代の最後、昭和39年ですが、ビニロン不織布ルーフィングが登場いたしました。これが現在のアスファルト防水の信用を高めた元なんです。

## 8. 昭和40年代 (1965～1974)

昭和40年代に入りますと、加硫ブチルゴムに亀裂が入ったのを、これにEPDMを入れてオゾン亀裂が完全に克服されました。EPDMだけで防水シートを作っている会社もあるくらいです。これ以来、加硫ゴムのシート防水はずっと、最近は大部少なめになってまいりましたが、それでも50%のシェアを維持しているようです。

そのころ外断熱防水が出てきたり、昭和42年には2成分のポリウレタン防水が登場しました。初期は攪拌（かくはん）不良などがあり、しばらくはうまくいかなかったけれども、メーカーさんや施工店の努力で工事はうまくいくように

なりました。このころゴムアスのエマルジョンの吹き付け急速凝固工法が当時の西ドイツから導入されました。

昭和46年ごろ、アクリルゴム系エマルジョンの塗膜防水が開発されました。当時は屋根に用いられていましたが、着色が自由という長所から競合が少ない外壁防水に用いられ、一つのジャンルを形成しました（この内容は本稿で追加）。

それから1974年、ディナミット・ノーベルという会社から機械固定工法が導入されました。今は別の名前の会社になっています。外国の会社はすぐ名前が変わるから覚え切れませんね。

これは塩ビシートを機械固定をする工法で、すぐに日本の工法が出てまいりました。下地が乾燥しなくても施工してよいか、いろんないい特長がありますから、最近はますます多くなったんです。私が心配していたのは、台風が来たらどうなるかいなということです。最近の台風でやっぱり案の定という結果が出てまいりました。

## 9. 昭和50年代 (1975～1984)

1976年、「屋根防水用塗膜材」という名前で塗膜防水材のJISができたんですが、これを大変悔しがった人がいます。なぜこれが「塗膜防水材」でないのかと。防水用塗膜材と塗膜防水材とではかなりイメージが違ったらしくて、私は大体いい加減だからどっちでもいいじゃないのと思っているんですけど、ある人は大変悔しがった。

このころになりますと、ストレッチルーフィングが出てきます。これが先ほど、昭和39年にできたビニロンの不織布をベースとしたルーフィングでございまして、その性能を基にして建築学会の標準仕様書に「特殊ルーフィング」という名称で入れておりました。これのJIS「ストレッチルーフィング」ができますと、そのほかの材料も出てきました。ポリエステル連続繊維のспанボンドをベースにしたルーフィングも出てまいりまして、アスファルト防水がこういう材料のおかげで、失いかけていた信頼を回復してまいりました。

先ほどちらっとお話をしましたが、ウレタン防水材もいろんないいことがありましたが、だんだん中身がよくなってきました。そこへ「通気緩衝シート」というのが登場いたしました。それを使うことによってウレタン防水は革命的にようになってまいりました。

このころオープン・ジョイント構法というものが研究をされ始めまして、新宿センタービルのコンクリートプレキャスト板のジョイントに採用されました。それにはシーリング材は使わないかという、エアバリアとしてジョイントの一番室内側のところに使っています。風が通ると一緒になって水も入ってきますから、水の大半は前のほうで処理して、空気に乗って入ってくる水は空気と一緒に止めてやろうというエアバリアをシーリング材で造っています。

1980年ごろになりますと、トーチ工法用改質アスファルト・ルーフィングが輸入されました。輸入はされましたけれども、なかなかこれが順調に伸びていかない。今もってあんまり順調には伸びていないようで、非常に残念に思っています。外国人は手先が不器用だからうまくいかないだろうとか何とか言っていました。このトーチ工法に関する限りヨーロッパのほうがうまくやる。それは職人の腕がいいか悪いかは別にして、向こうの職人さんは時間給で働いています。日本の職人さんは1平方メートルなんぼで働いているわけです。ですから、どうしても丁寧さが欠けるんじゃないかな。昔、おやじが勤めていた軍需の協力工場でリベットを作っていましたけれど、1個いくらというふうにするのとたくさん作るというんです。1日なんぼで働いているとあまり作らないと。人間はそんなものでしょうけど。日本の請負の仕方、働かせ方がいい丁寧な仕事をしにくくしているのかもしれないね。

シーリング材もいろんな事故を経験して、結局はシーリング材のジョイントは設計をしないといけないと思われるようになりました。材料の性能はもちろん大事ですが、それを使うときの技術的な検討も非常に大事であるということです。材料の使い分けについては、シーリング材工業会が適材適所表というのをつくりました。

これがうまくいっているのかどうか、ここにはご関係者もいらっしゃるでしょうけど。設計の最初から目地幅はこんなものだというふうには、なかなか日本の工事はいかないんです。誰かがもう目地を決めてしまって、そこをやれ。やれと言われたって、これじゃ無理だよと言っても、まあ、いいからやりなよというようなことでやっているという。

ですから、シーリング材工業会で、何て言いましたか、コンサルタントみたいな人(シーリング管理士)の資格を認定していますけれども、そういう人たちが活躍で結構な話ですけど、設計のかなり最初からそういう人たちが関与しないとけない。目地ができてからやれと言われてもね……。屋

根の防水はいいんです。下地に亀裂が入って、それが動くぞということであるならば、点張りとか浮かし張りなんかで対応できるわけです。でも、ジョイントだけはできてしまったらどうしようもないんです。せいぜい高価な性能のよいシーリング材を使うぐらいのことしか解決策がないわけですし、ぜひともこういうシーリング・ジョイントのコンサルタントは、設計の早い段階から参加するようにシステムをつくっていただきたいなと思います。

## 10. 昭和60年～平成6年 (1985～1994)

途中からちょっとスピード違反をいたしまして、事故直前みたいな運転をしてここまでやってまいりました。時間がだいぶ余りました(実は勘違いでした)。余りましたけども、いつまでもお話するのも問題ですが……。

先ほど触れましたウレタン防水に使っている通気緩衝シートのお話をします。通気緩衝シートには2種類ありまして、水を止める能力がありそうなシートものと、不織布みたいなニードルパンチカーペットみたいな構造のもの2つありますが、こちらのほうは水を止める能力がないわけです。シートものは、最初は発泡ポリエチレンを使っておりましたが、それは防水能力がないものと考えているんです。防水の能力がないとは言えないですが、防水性能を考えないということだったんです。これを防水用のシートですよと言えるようなものにしたら複合防水層になっていいんじゃないかと、かねがね思っていました。

改質アスファルトのシートの表面にウレタンとの接着性を改善するために布を付けて、それを下地に張った上にウレタンを塗るとシートと塗膜材料の両方が複合化できます。これはアスファルト防水がそうなんです。アスファルト防水は材料性能の関係で3枚ぐらい張りますが、そういうコストもあるわけです。安いからたくさん使えるということです。ウレタン防水材は安くないからたくさん使えないけども、最小限度、シート1枚、ウレタン、これは2度塗りか3度塗りですけど、そういうふうにするによって、新しい複合防水が成立したことになります。

このころ、工場の耐酸床に使っていたり、釣り船ですとか、小さなボートなどに使っていたFRPが建築の防水にも使われるようになってまいりました。これもよく考えてみる

と気をつけなきゃいけないことが幾つかあるようです。コンクリートの上に使っているうちは、それほど心配ないんですけども、ALC板の上を使うとか。木造を使うとかということになりますと、配慮しなければいけない面が出てまいります。

あまりこういうところでお話するわけにいかないんですが、国土交通省の建設工事紛争審査会に、今、あがっている案件が、ツーバイフォーで造った寮みたいな建物のバルコニーにこれを使っている事故です。FRPが悪いのか、端末処理がうまくできてないのか分かりません。現場を見たわけでもないし、既に現場はかなり壊していますから話だけですけども。

思い付いたからここでちょっとお話申し上げておきます。鉄筋コンクリートの防水はほとんど解決したと私は信じております。今、問題になるのは、木造ですとか鉄骨造の防水がいろんな事故を起こしているのではないかなということです。鉄骨造の防水については建築学会の防水工事運営委員会にお願いをして、鉄骨鉄筋なら問題にならないけれども鉄骨構造では考慮しなければならぬ面の多い防水についてお考えいただいております。木造もお考えいただきたいなど、ここでご提案申し上げる次第です。折よく材料施工委員会の委員長がおられますので、ここで申し上げておけば、もうじかに通じるだろうと思っていますけど。あらためて後の懇親会でしつこくお願いをしようと思っています(笑)。

1989年、「屋根用塗膜防水材」のJISができて、屋根防水用塗膜材の名称に不満足だった人がようやく満足をしました。塗膜防水材になりましたということです。

それから、1990年ごろからいろんなことが出てまいります。

ウレタン防水材に超速硬化という材料が登場してきました。世の中には文士が大勢いらっしゃるようでして、急速硬化じゃなくて、超速硬化と言うんです。急速と超速とどっちが速いかというと、やっぱり超速が速いんでしょうね(笑)。超特急と言うぐらいですから。昔から私は防水工事はできるだけ機械化したほうがよろしいと思っていました。ウレタンなどもいつまでも手で塗っていたんじゃない……。もちろん、そういう工事もあるわけですけども。非常に大きな面積の施工個所では機械を使ったほうがいいんじゃないかなというふうに、かねてから思っておりました。ここにきて、ようやく機械化してまいりました。

これの応用編として、超速硬化じゃなくて、普通の硬化……と言うのでしょうか、そういうものでも、機械で混ぜて、地上で混ぜる訳じゃなくて、地上から上へポンプで送って、2つのホースの先のノズルで攪拌して供給するわけですが、超速硬化は攪拌したものをすぐにスプレーするわけですが、普通硬化のものは屋上の運搬用の容器にドロドロと入れてやるということもできるわけです。塗膜防水はいろいろと機械化がうまくいきそうだなと。いきそうだなじゃなくて、いっていると言ったほうがいいですね。私は業界の外にいる人間ですから、身にしみてそれが分かっているわけじゃありませんが。

1992年になりますと「改質アスファルトルーフィングシート」がJIS化されました。このときに、早とちりをした人が、トーチ工法の材料がJIS化されると勘違いをしました。このJISをつくっているときに日本には小池というのがある、その人が「うん」と言わないと売れないんだというようなことを業者の人が外国人に言うんです。そんなことを言うと、私がものすごい権力者に見えるじゃないですか。私は優しいヒツジです。ひつじ年ですから優しいんです。私はまだ東京工大にいたときに、外国人が大勢あいさつにきましたね。勘違いしてきました。トーチ工法に使うルーフィングシートもその中に入っているということなんです。JIS化を受けて、日本建築学会の仕様書にもこの工法が入ってきたということでございます。

## 11. 平成7年～16年(1995～2004)

あまりに急いだったので10分残りでしたが(もちろん勘違いでした)、これが最後です。最後の10年、今年が平成17年ですけども、まだ9月、10月、11、12と4カ月残っていますから、この期間を17年までとせず、今までの区分どおり平成16年までとすればちょうど10年ですから、これで切りがいいわけです。

1995年、非常に腹立たしいことがありました。村山内閣の時代、外国の圧力で日本の市場を開放しなさい。ついては、ISOに規定されている材料のJISはISOに準拠することが閣議決定されました。準拠というのは、特別なことのない限りそのとおりにしなさいということで、一番困ったのがシーリング材です。シーリング材のJISは、私は世界で一番のJISだと思っていますが、それをISO風に直すというのは

ものすごく腹立たしい事件でございますが、閣議決定をしてしまっているからどうしようもないぞということです。それでも抵抗いたしました。ISO準拠のJIS本文をつくりまして、参考資料として以前のJISのとおりのを付けたら、世の中、だれもISO準拠のJISを使わなかった。使用実績もありませんから参考にならないからって、後ろのほうの付録のようところが、独り歩きをしておりました。

昨年か、おとしになるんですかね、ちょっと忘れましたが（昨年でした）、元の通産省工業技術院ですけれども、今の組織は覚え切れないほどむちゃくちゃ長いんです。経済産業局から始まって3行ぐらいかかるところがJISをつくっているんですが、その人たちもちょっと緩めてもいいんじゃないのということになって、かなり前のJISの考え方をに入れて改正して公布されました。

それから、昭和32、33年ごろに、ここに書いてありませんが、アスファルト防水が10年保証というのを始めました。昭和32年じゃないかと私は思っています。これが民間レベルの消費者保護の役割を果たしていたようです。そういう精神がようやくここへきまして、住宅に限定はされておりますけれども、正式なことは覚えておりませんが、通称「品確法」（住宅の品質確保の促進等に関する法律・平成11年6月公布、平成12年4月施行）、ができましたが、今、どれくらい活用されているか私には分かりません。

そのほか、ごく最近の話題では、2001年、水硬化ウレタンが上市されました。関係者に聞いたら、2001年ぐらいいいですよという話だったんですが、その関係者が2000年だと言っているんです。まあ、1年ぐらいいいかという感じですか。これがどう世の中でかわいがっていただけるか分かりません。

塩化ビニル樹脂を焼却するとダイオキシンが出てくる。燃やしてもそういうものが出てこないものを使ったらいいかなどということで、サーモプラスチック・エラストマーが使用され始めました。この辺になりますと、私には何年ごろからか追跡をできないのでOHPにはあいまいに書いてあります。

低臭低煙アスファルトが普及してまいりました。どれぐらいになるんですかね。10年ぐらいになるんでしょうかね。ちょっと私は分かりません。世の中、環境保全の要求が強くなってまいりましたから、防水工事もいろいろなことで悩んでおります。

これは対応策の1つですが、塗膜防水材は液状ですから容

器に入れて現場に運ばないといけない。そういう意味でも、前のOHPに出てきた超速硬化みたいに機械でポンプアップして、ノズルのところで攪拌して出す。その容器やホースなどは所定のところに持ち帰って清掃して、容器は再利用するというようになってまいりました。

アスファルト防水のほうでも、アスファルトの溶融時のおいとか煙なども対応ができる低臭低煙のものが上市されています。先日、ある雑誌を読んでいたら、かなり大きな場所でこういうのを使ったおかげで、近所から文句も来ずにうまく終わったなんて書いてありました。

それから、屋上緑化政策推進。これについては、私も若干、意見がないわけじゃないです。屋上だけやったら十分じゃないということです。屋上よりも壁のほうが多いし、道路とかの面積のほうが大きいです。ある雑誌の巻頭言に「そういえば最近水まき自動車が来ないね」なんて書いたんです。それから大部たつんですけど、おぜん立てする人があって、水まき運動というのを始めたんです。ひしゃくでまくぐらいの水じゃね。江戸時代ならそれで済んだんですけどね。屋上だけでは駄目なんです。これを言うと悪口になるからもうやめておきますが、行政庁は屋上緑化に飛びつきまして、行政も頑張っているぞというような姿勢を見せたいと思っているようです。

塩化ビニル樹脂の焼却でダイオキシンが発生するので、ドイツなんかでは使用が制限されているという話を聞きましたけど。アスベストがまだ完璧に禁止されない日本ですから、なかなかこういう毒ガスを出すようなものも、完全には法律的に禁止するようなことにはならないんじゃないかなと思っています。サーモプラスチック・オレフィンとか何とかいうんですね。ここに専門家がいっぱいいらっしゃいますから、変なことを言うとしかられるかも知れませんが、そういうものを使って、塩化ビニルの今までの用途にだんだんと置き換わっていくということでございます。

## むすび

終わりがけ、ちょっとスピードを緩めたら、もう時間をオーバーしてしまいました（笑）。5分オーバーしましたね（これも勘違い）。どうもすみませんでした。失礼をいたします（拍手）。

# 防水工事業の沿革と技能検定

(社)全国防水工事業協会 常任理事 丸山 功

ご紹介をいただきました丸山でございます。防水100年記念というこの晴れの場で皆様の前でお話をするなどということは誠におこがましいことと思いますが、しばらくの間、お許しをいただきたいと思っております。

本日の私のテーマは、「防水工事業の沿革と技能検定」ということでございます。もともと技能のことをテーマとして取り上げるように、高山会長から言われておりました。技能といえば、やはり技能検定ということになるものと思っております。防水業界では技能検定を実施するまでには、業界組織というものが大きく関与することから、「防水工事業の沿革と技能検定」というテーマを考えさせていただいたわけです。

皆様ご存知のとおり、防水施工の技能検定は昭和51年度にアスファルト防水が最初に実施されております。面白いことに、当時の防水業界の活動に関わっていたわれわれ自身が技能検定の実施を目的として動いたという覚えが全くないのです。技能検定そのものを目的で技能検定を実施することなら、それに対するいろいろな手続きを考えてやるというのが本来なのですが、そういうことではございませんで、それどころか、われわれ自身、その当時は技能検定そのものの存在すら知らなかったのです。防水業者は、行政と隔絶した存在だったということが言えるのではないかと思うのです。

本日は、厚生労働省から上席技能検定官もお見えになっておりますので、このようなお話をすることはどうも面はゆい感じがいたしますが、当時のわれわれの状況を有りのままにお話をさせていただきます。最初は必要に迫られて工種認定取得のために動き始めたことが出発点でした。防水工事業の技能検定は、業界創世の原点へとつながるような因果関係と想像以上に幅濶した経過の果てに、存在していたということになります。本日はその辺のメカニズムを防水工事業者の当時の実態や、その背景などを交えながら、改めて追ってみた

と思います。

あらかじめお断りしておきますけれども、私自身がもう防水工事屋として、半世紀に近い年数を経ております。ですから、防水100年の半分近い年数での実際体験した記憶をもとにお話しますので、思い違いもあるかと思っております。それから、地域によって違う面があるかと思っております。例えば、東京と大阪、いろいろ食い違う面もあるかと思っておりますが、その点はお許しをいただきたいと思っております。

## 1. 本防水とモルタル防水のこと

今から大体40年から50年前、昭和30年代から、少なくとも40年代の前半までは、本当の意味での防水工事業といわれるものが、建築業界では存在していなかったというところ、ちょっと意外に思われるかもしれませんが、それは実際の話なのです。もちろん防水工事という言葉はありましたし、防水工事そのものはあったのですが、しかし、防水工事業というものがありません。防水工事業界はもちろんです。それが当時の実態だったのです。

それというのも、当時は現在と比べると、本当に防水工事業者の数が少なかったのです。例えば、東京で考えてみましても、現在、東京都の防水工事の許可業者は、500とも600とも、あるいは700社とも言われているのですが、これはもう防水工事を毎日やっている工事屋というのではなくて、許可さえ取ってれば行政面では防水工事業者の実数になるわけです。その当時、防水業者というのは、実際には東京中でせいぜい30社内外でした。モルタルの工事屋も多少入った話です。そのくらいの数しかなかったのです。ですから、最近の若い人から見れば、もうお話にならない。全然、想像



を絶するほどの数じゃないかと思います。

先ほど小池先生のお話にもありましたが、1905年、明治38年が近代防水の発祥と位置付けて本年が防水100年ということになったわけですが、これは、取りも直さずアスファルト防水の歴史ということになってしまうわけです。アスファルト防水と書いていいのか、アスファルト工事と書いていいのか、ちょっと分かりませんが……。

アスファルト防水の原点と言えば、アスファルトだけによる防水です。今のルーフィングのようなものがない時代、日本の国内では今から1300年以上も前に「日本書紀」などに記録が残っているようですが、太古の昔からアスファルトによる防水があったというのです。実際問題として、その当時は当然、いわゆるナチュラルアスファルト、つまり天然アスファルトです。現在の石油アスファルトと違うわけですが、いわゆる土瀝青というような言葉も残っておりますが、アスファルトをただ塗りたくるだけの防水だと思います。

外国、特にヨーロッパでは、紀元前2500年から2800年ぐらい前から、もう既にアスファルトによる防水が行われていたと言われております。皆さんよく知っているところでは、ノアの方舟なんていうのがありますけれども、その水もれの補修が行われていたとか、当時、ローマ辺りでは水道があって、それは木管水道というのですが、木の内側にアスファルトを塗って水もれを防いだというようなことも記録に残っております。

またアスファルト防水と並んで古い歴史を持っているものに、セメント系の防水がございます。セメント系の防水と現在は言うておりますけれども、その当時は、われわれは“モルタル防水”、あるいは“防水モルタル”というような言い方をしておりました。その“モルタル防水”と“防水モルタル”という言葉の違いがわれわれは分からなくて、当時いろいろ聞いたり、調べたりしたのですけれども、とうとう分からずじまいでした。

つい先頃、本日の司会をやっておられる吉田社長にほかの話から、その話がひょいと出まして、初めて分かったのですが、“モルタル防水”というのは、いわゆる防水系の言葉、防水屋系の言葉だということに伺いました。そして“防水モルタル”というのは、左官屋系の言葉なのだということでした。“モルタル防水”と“防水モルタル”の言葉の意味合いを初めて知りました。数十年の胸のつかえが取れたような気がいたしました。

そのようなことで、現在のセメント系防水も非常に古い歴



史があるわけです。私の聞いているところでは、大正の末期から昭和の初期にかけて始まった、ケイ酸質系防水が創始であるというように伺っております。

昭和30年代の前半ぐらいまでは、現場ではアスファルト防水とモルタル防水を区別して、ゼネコンの方たちはアスファルト防水を「本防水」というような言い方をしておりました。「本防水」という言葉は、本来的な防水という意味か、本物の防水という意味かよく分からないのですが、とにかくそのような言葉が日常的に使われておりました。「大した面積じゃないが、こっちはモルタル防水でやるけど、大屋根のほうは本防水でやってくれよ」とか……。大阪、関西ではそういう言葉があったかどうかよく分からないのですが、東京、関東では「本防水」というような言葉をゼネコンだけじゃなくて、設計もそのような言い方をしていたのを記憶しております。

実際問題として、モルタル防水をアスファルトの職人にやらせるなんていうこともよくあったのですが、当時は今の現場と違って非常にのんびりしたというか、大らかな現場が多かったので、われわれはアスファルト工事の、アスファルト防水が本業なのですけれども、「ここのところは面積がないからモルタルでやってくれよ。セメントでやってくれよ」というようなことがちょいちょいありまして、アスファルト職人の中には本当に器用なのが随分おりました。それこそ不可能の文字がないくらいに、ナポレオンみみたいな職人さんがいっぱいいたわけです。

とにかく言われれば、何でもやるということで、川砂とセメントを調合してモルタルを作り、市販の防水剤、防水液というのか、記憶では、ウォータイトB号なんていうのを混入して、左官ごてで器用に均しておりました。

そのようにしてモルタル防水を、アスファルト職人がよくやりました。いずれにしても現場がのんびりしていましたからできたのではないかと思います。現在では、建設会社のことをゼネコンと言っており、われわれ専門業者はサブコンと言われております。ゼネコンを元請と言ったりしますが、元請、下請という言葉も不適切だということで総合建設業者と専門工事業者という呼び方に変わりつつあります。

その当時は、言葉も随分違っておりました。ゼネコンという言葉はもちろんないです。サブコンもなかったし、元請、下請という言葉もあまり使わなかったですね。ゼネコンのことは「組」という一言でした。これは随分、体験なさっている方もあると思いますが、「組の監督さんに相談しろよ」とか、「組へ行ってちょっと聞いてこいよ」とか、そのようなことで、われわれは日常的にゼネコン、例えば何々建設であっても間接的な「組」という表現をしていました。「組」の人とか、「組」の監督さんなんて言うと、何かちょっとあっちの世界じゃないかみたいなのところもあるのですが、「組」という言葉が日常的に通用しておりました。

もっともわれわれ自身が職人からは、監督さん、それから、もう1つ番頭さんという呼ばれ方をされておりました。最初、新入社員で番頭さんと言われたときにはどうしたらいいのかと思ったけど、慣れてしまうと何でもないことで、監督さんと言うと、「はい、はい」、番頭さんと言われれば、「はい、はい」というふうな返事がスムーズになるものなのですが、日常のそのような言葉使い、現場での言葉使いもいろいろと昔は違っておりました。

それから、例えば今の「組」の話ですけれども、われわれが見積書をゼネコンに出す場合に条件があります。その中で「燃料組支給」なんて書くのです。それは何かというと、燃料は当時、現在と違って薪です。その薪が現場の廃材なのです。ですから、われわれ防水工事業者が釜でアスファルトを溶融するとき燃料を当然使うわけですが、その溶融するのに薪がペラペラの薪だと、これは効率が非常に悪い。火力もないし時間がかかるし、薪の補給が大変なのです。だから、バタ角みたいなこくのある薪が欲しいわけです。ところが、バタ角はゼネコンは絶対に出さないのです。それを若い薪係の監督に、ちょこっと鼻薬を効かせて、「バタ角持ってこいよ」なんていうようなことが日常的にわれわれの仕事だったので、薪集めなどでも、いろいろと当時の現場の雰囲気として、本当に今と違って大らかで、のんびりしていたと思います。

## 2. アスファルト工事と防水工事のこと

アスファルト工事と防水工事というと、ちょっと言い回しが紛らわしいと思うのですが、現在の工事屋の名刺は各種防水業とか、あるいはどちらかと言うと、具体的に材料名や工法名を書いているのが多いです。例えばシート防水だとか、ウレタン防水、あるいはアスファルト防水というように、防水工法を強調した具体的な表現が多いように思うのです。当時のわれわれの名刺というのは、「アスファルト工事請負」とか、あるいは「アスファルト応用工事一式請負」ということで、防水という言葉あまり使わなかった。「アスファルト工事」、これが中心だったのです。なぜかと言うと、アスファルトしかなかったからなのです。

実際問題として、「アスファルト工事」はどのようなものが、どれだけの種類があったのかということになるのですが、まず一番大きいものとしては、アスファルト舗装工事です。舗装工事というのは道路工事です。マカダムとかトペカなどのアスコン舗装をよくわれわれは勉強をさせられたのですが、大型のアスファルトフィニッシャーや転圧ローラーなどを現場へ持って行く必要があり、大がかりな設備、機材が要るわけですから、小さいところじゃできない。そのような設備を持っているところでないといけないということで、そればかりをやっているところへ集中したものですから、そこで道路工事屋が区分されたと思います。道路工事屋そのものが、当時は全部われわれの仲間だったのです。ですから、そのような機材を持っている会社が道路工事屋になっていったのです。

それから、もっと簡単なもので、アスファルトの簡易舗装というものがありません。これはご存じの方、ご覧になった方もあるかもしれません。乳剤です。乳剤舗装というものです。アスファルト乳剤をひしゃくでまいて、7号碎石を糞(み)で撒いて、いろいろな道路補修用になんかよく使っていました。区役所や市役所の職員がよくやっていたと思いますが、われわれもそういうことはやりました。

それから、よくやったのはアスファルトの舗床(ほしょう)工事です。いわゆる屋内の床。そこにアスファルト舗床をやりました。アスファルト舗床とは何かと言うと、いわゆるアスファルトモルタルのこと、アスモルです。ブローンアスファルトと7号碎石ぐらいの細かい碎石、それから寒水石粉と川砂などを混ぜる。それを熱で攪拌していくというよう

なやり方なのです。この辺もいろいろありまして、後半はカラーアスファルトというものができました。カラーといってもチョコレート一色だけですけれど。紅柄（ベンガラ）を混ぜると、アスファルトがチョコレート色に、赤みが出る。大きな焼きごてで平滑に均してから、それに今度は仕上げをもっときれいにするために、チョコレート色の塗料のフロアドレッシングで塗装して仕上げる。学校の廊下だとか、職員室だとか、歩いても非常に靴裏にやさしく当たりが柔らかいわけです。そのようなものをよくやりました。

それから、耐酸アスファルトモルタル。これはさっきのアスモルと違って、寒水石粉でなくて、蛸石粉と珪砂を混ぜるわけです。同じように、やはり焼ごてで塗っていくというか、均すのです。硫酸や塩酸を使う酸工場だとか、ビール工場だとか、ウイスキー工場などでは、よくやりました。

それから、伸縮目地詰めというのがありました。伸縮目地詰めというと、今はもう成型目地一本ですけれども、当時は全部、目地棒で目地を切る。防水が終わってから屋上に目地棒を入れる。シンダーコンクリートには30mm くらいのエラストイトを埋め込んでモルタル仕上げには、20mm くらいの目地棒を埋め込んで、モルタルが固まってから目地棒を外して、そこへアスファルトを流し込む。あるいは、アスファルトコーチングという黒いアスファルト製のコーキング材を流し込むというか、埋めるわけです。

当時、私が見て面白いなと思ったのは、真鍮目地というのがありました。細いもので、大理石だの人研ぎなんかの目地に使った。左官屋の仕事だったと思いますが、それが間違っただけで同じ目地だというので防水屋に発注があったりすることがある。真鍮目地というのは、細くてきれいな芸術品に見えました。

それから、先ほど小池先生もおっしゃっていましたが、いわゆるコーキング詰めのことですが、これは当然、サッシ回りのコーキング、今でこそシーリングということで、サッシ回りのコーキングはどんな小さいビルでもやっていますが、当時、サッシ回りにはコーキングしなかった。サッシ回りにコーキングをやるビルっていったら、これはもう高級なビルなのです。ですから、10のうち1つあるかないか、そんな程度でした。当時のサッシ回りのコーキング材は、これも先ほど小池先生がおっしゃってましたが、油性コーキングしかなかった。最初は舶来品でした。だんだんこれが国産化されて、それこそ日新工業さんでも田島ルーフィングさんでも、皆さんどこの会社でも、コーキング材はルーフィング会

社が作るようになりました。

そのコーキング詰めの仕事では、随分苦労しました。その当時は、ダメが多く固いものばかりで、コーキングガンでやっても、10mと打てない。固くてどうにもならない。だから、火にあぶって、柔らかくしたり、ガソリンを混ぜてかき回してみたり、いろいろ工夫してやったのですが、かえって後が駄目になってしまう。そんなことで、コーキング詰め、サッシ回りのコーキング詰めは苦労しながら、アスファルト職人が大体やっておりました。いわゆるコーキング専門の職人さんというのが、当時はいなかったのです。ですから、アスファルトの職人がみんなやっていたわけです。何でコーキング材は、油性コーキング1本だったのか、ポリサルファイド系やウレタン系のシーリング材がなかったからなのですが、うそか本当か分からない、多分うそだと思うのですが、聞いた話では米軍のジェット機の開発によるということが、その当時は言われておりました。

もともとプロペラ機の時代には、滑走路の目地も全部、アスファルト詰めだったんです。それがプロペラ機からジェット機の時代になって、ジェット推進の噴射の熱で全部アスファルトが溶けて、どこかへとんでしまう。これが原因で、アメリカでポリサルファイド系のシーリング材が開発され、それが建築のほうに应用されるようになり、そしてシーリングという市場が生まれたという風にその当時、聞いたのです。実際はどうだか分かりません。

大分話がそれましたが、本題に戻ります。もう1つやっていたことは、アスファルトの成型品の販売です。これはアスファルトの成型品というといろいろあるのですが、当時一番ポピュラーだったのはエラストイトです。エラストティックボードとも言いました。エラストイトというのは、今でもあるはずですからご存じの方が随分おられると思います。アスファルトによる、いわゆる成型板です。これも伸縮目地、シンダーの目地に使ったり、あるいはエクспанションジョイントにも使ったり、いろいろ使い方があったのです。エラストイトはどの現場でも使っていました。販売もしたし施工もしたわけです。

それから、アスファルトブロック。これもアスファルトで成型板を作って、それを敷き詰めるという平板ブロック的なもの、それに対応してアスファルト巾木、こういうものも工場で作られて、われわれは施工もしたし、販売もしたというような記憶がございます。そのようないろいろなアスファルト製品や、あるいはアスファルト工事の中の1つに、アス

ファルト防水工事というのがあったというようにお考えいただいたほうがいいのかと思うのです。時代とともにアスファルト防水工事の需要が高まり、除々に専門化して道路と防水に分かれて現在に至った訳ですが、当時は、そのようなわけで、いろいろとまぜこぜで営業しておりました。

ルーフィングメーカーが作るアスファルト製品というのは、何でもかんでもわれわれ工事屋が使っていたということになるわけです。このような工事屋の多彩な営業種目というのは、当時の工事屋であればみんな共通で、みんなどこでも同じにやっていたように思います。

話がちょっと横道にそれますが、アスファルトという言葉は今は世界語になっていて、どこの国でもアスファルトという言葉は通用します。しかし、このアスファルトという言葉はもともとギリシャ語だというように聞いております。先ほど小池先生の言葉の中にもありましたけれども、英語ではビチューメンとか、あるいはビチュミナスとかいうようです。日本語では瀝青という言葉があります。現在でも、社名に瀝青という言葉のついた防水屋がいっぱいあるわけですが、瀝青というのは、その当時、アスファルト工事をやっていたときの名残であるというふうに私は考えております。瀝青という言葉は、何というか、当時をしのぶよすがにもなるのではないかと思ひ、そのような言葉は防水のルーツのためにも、ずっと残しておいて欲しいと願うものです。

戦後の復興景気も昭和30年代にはピークに達して、空前のビルラッシュとなって、年を追うごとに防水工事の比率が高まってきて、やがてアスファルト工事屋も防水工事と道路工事に分業化し、さらにビルの防水を主体とした建築防水と、道路、橋梁、トンネル、地下鉄等の防水工事を主体とした土木防水の分野にそれぞれ分かれて、現在に至っているわけです。そのような意味で、アスファルト工事というものが大きく変化して現在に至っているということがお判りいただけると思います。

### 3. 職種認定と想定外の範囲外の副産物のこと

昭和30年代の当時、官公庁の入札工事で落札して、工事契約に必要な各種の届出書類の項目に工種の欄と、それから、業種の欄があるのです。それで、工種という欄に、われわれは当然、防水の入札で落札しているのですから、防水工

と書き入れて、業種の欄に防水工事と記入すると、役所には備え付けの工事基本台帳というのがあるのですが、そこに防水の項目がないのです。そのため契約担当官から、この工種欄と業種欄に記入する名称が違っているとと言われる。工種欄に左官工、屋根工、板金工、鳶土工、果ては雑工にしろとまでと言われる。しょうがないから雑工と書くのです。このように防水という言葉が使えなかったのです。もう本当に悔しいやら、情けないやら。そんなことで、これは何とかしなきゃいけないのじゃないかということでわれわれの仲間同士でいろいろ話し合いをしたことがあるのです。いろいろ聞いたり、調べたりしてみたら、防水工という工種をまず当時の労働省に認定してもらわなければならない。それで、労働省へ行って認定してくださいと言ったら、冗談じゃない、そんなに簡単に認定できるかと言われました。まず、組織をつくれ、全国組織がなければ、まず駄目だと。全国組織をつくってから、それから正式に申請しなければ駄目だということなのです。

それは大変だということで、当時社団法人日本アスファルト同業会(通産省所管)の団体の中に工事屋ばかりで施工部会があったのですが、それが分離、独立して、昭和39年の2月に登記したばかりの東京アスファルト工事業協同組合(現在の東部アスファルト工事業協同組合)が労働省の指導を受けながら、全国組織の結成に向かって活動を開始したということなのです。その時点では、まだシートやウレタンの高分子系の防水工事業の団体はほとんどなく、アスファルト工事業の団体しか存在しませんでした。

その間の動きを年代で追ってみますと、まず、東京アス(現在の東部アス)が呼び掛けて、関西アスファルト工事業協同組合(関西アス、現在の西部アス)ができました。それから、近畿防水工事業協同組合というのもありました。記録では近畿防水というふうになっております。だけど、どうも表面的には関西アスだったようで、ちょっとその辺があいまいなのです。それから、九州アスファルトができておりました。そこで、九州アスにも呼び掛けて、協力してもらって、東部、西部、九州を頭につけたアスファルト工事業協同組合というのをそれぞれつくり、3つの協同組合を会員として、全国アスファルト工事業協同組合連合会、いわゆる全アス連を結成しました。全国組織が出来たぞということで、労働省から昭和46年の9月に防水工種が認定されたのです。

それから、翌年の昭和47年1月に申請を建設省(現在の国土交通省)に提出して、防水職種認定をいただきました。

そのときの官報に、「建設業法施行規則の一部を改正する建設省令第1号」の交付となっています。お役所の文章というのは、全く難解ですが、これが正式のいわゆる認定なのです。そのようなお墨付きをいただいて、防水の職種認定が取得できたということです。

それから、同年4月に至りまして、今度、労働省が防水施工科を新設しました。それも官報では、「職業訓練施行規則の一部を改正する労働省令第1号」の交付ということになっております。これがお墨付きの文面なのです。

それで、労働省から「工種認定」、建設省から「職種認定」を、さらに労働省から「防水施工科」を新設していただいて、この結果、労働大臣が主催する技能検定試験に「防水施工科職種」という職種名で参加する資格ができたということなのです。ただ、技能検定そのものをどうやっていいのか、当時のわれわれにはさっぱり分かりませんでした。

これも労働省や試験問題作成機関である中央職業能力開発協会に教わりながら、準備を進めました。丁度たまたま、その当時、相前後して高分子系材料を駆使した防水工法が続々と上市されておりました。そして、数多くの新しい団体が誕生しつつあったということです。

当時の建設省の公開資料の中に「事業協同組合名簿(建設大臣認可)」というのがございます。これは昭和51年3月10日付で、当時の建設省計画局建設振興課(現在の総合政策局建設振興課)から発行されたもので、昭和30年代から昭和50年までに認定された協同組合名及び連合会の詳細が記してある名簿です。お手元の資料の「事業協同組合名簿」(表1)をご覧ください。一番上には連合会認可の9団体があって、そのうちの防水は1団体で、これが先ほど申し上げました全アス連です。認可年月日が昭和46年8月17日。それから、協同組合のほうは認可数が139団体で、そのうち防水が17団体。その17団体はここに書いてあるとおりでございますが、昭和38年から、40年代、50年代ということで、これが現在では5、6センチぐらいの厚みになるほど増えています。当時はお役所も随分と儉約していたらしく、全部ガリ版刷りで、用紙もわら半紙みたいな安っぽい紙でした。それが現在でも手元に残っており、それに基づき転記したものがこの資料です。もしご覧になりたい方があれば、東部アスの事務局に全部保管してございますので、ご覧になっていただきたいと思っております。そんなわけで、その当時、高分子系の工法材料が上市されてきており、数多くの協同組合が、続々と誕生してきたわけです。

表1 事業協同組合名簿(建設大臣認可)

連合会(認可数9団体/防水1団体) [年は全て昭和]

	名 称	登記(設立)年月日	認可年月日
1	全国アスファルト工事業協同組合連合会	46. 9. 2	46. 8. 17

協同組合(認可数139団体/防水17団体)

	名 称	登記(設立)年月日	認可年月日
1	東西アスファルト事業協同組合	38. 5. 2	38. 4. 22
2	日本アスファルト防水工業協同組合	38. 9. 17	38. 8. 8
3	東部アスファルト工事業協同組合	39. 2. 8	39. 1. 30
4	西部アスファルト工事業協同組合	39. 4. 20	38. 4. 25
5	近畿防水事業協同組合	41. 6. 10	41. 4. 21
6	大阪アスファルト事業協同組合	42. 3. 25	42. 2. 21
7	タイガーアスファルト防水工業協同組合	45. 4. 9	45. 4. 1
8	九州アスファルト工事業協同組合	46. 2. 4	46. 1. 8
9	日本ウレタン防水工事業協同組合	46. 3. 5	46. 2. 20
10	日本パネコートウレタン防水事業協同組合	46. 3. 26	46. 3. 4
11	東亜アスファルト防水事業協同組合	46. 6. 1	46. 5. 6
12	東日本ロンブルーフ事業協同組合	46. 8. 20	46. 8. 5
13	パンレタン防水工事業協同組合	46. 11. 5	46. 10. 7
14	ダイフレックス防水事業協同組合	47. 6. 28	47. 3. 27
15	ゴムアスファルト防水工事業協同組合	48. 1. 12	47. 11. 24
16	東日本三星シングル工事協同組合	50. 8. 12	50. 7. 28
17	フレックスコート防水事業協同組合	50. 8. 13	50. 7. 28

※ この表は当時の建設省計画局建設振興課から昭和51.3.10現在として発行された“事業協同組合名簿”より防水関連認可団体のみを抜粋した資料

## 4. 全防連の設立と技能検定の実施のこと

まず、東部アスが提唱して、全アス連主導による、当時の防水7団体というのが出来上がりつつありましたので、その辺をさらにスピードアップして団体を結成していただきました。まずアスファルト、それからセメント、ウレタン、シーリング、プレハブ、シート、それからウレタンメーカー系統のウレタンの団体を入れて7団体で会合をもつことになりました。これも厳密に言うと団体の正式名称があるのですが、ちょっと時間の関係で省略させていただきます。

それが、昭和48年の1月に銀座の三笠会館で初めての7団体のオーナー会議を開催いたしまして、取りあえず任意団体

表2 「防水施工」技能検定作業の変遷

(平成17.9.7現在)

NO.	作業名	第1回実施年度 (認定種別)	実施等級	実施区分
1	アスファルト防水工事作業	昭和51年度 (新規認定)	1級・2級	後期
2	ウレタンゴム系塗膜防水工事作業	昭和52年度 (追加認定)	1級・2級	前期
3	合成ゴム系シート防水工事作業	昭和52年度 (追加認定)	1級・2級	後期
4	塩化ビニル系シート防水工事作業	昭和52年度 (追加認定)	1級・2級	後期
5	セメント系防水工事作業	昭和53年度 (追加認定)	1級・2級	前期
6	シーリング防水工事作業	昭和53年度 (追加認定)	1級・2級	前期
7	アクリルゴム系塗膜防水工事作業	昭和60年度 (追加認定)	1級・2級	前期
8	改質アスファルトシート工法防水工事作業	平成9年度 (追加認定)	1級・2級	後期
9	FRP防水工事作業	平成13年度 (追加認定)	1級・2級	前期
/	コンクリートプレハブ建築防水工事作業	昭和53年度 (追加認定)	平成12年度より廃止	

として防水全部の工種、全部の団体を網羅したものを結成しようということが決議され、まず任意団体として発足しました。その後、法人化を進め、全国防水工事業団体連合会(全防連)として設立したのが、先ほど小池先生のお話にございましたとおり昭和49年の7月なのです。東京都港区浜松町の世界貿易会館で設立総会を開催したわけです。そして昭和50年12月に建設省へ建設業法第27条の6による建設業団体届けを提出すると、昭和51年11月に建設省から団体届け受理の通知があり、この時点で全国防水工事業団体連合会というのが初めて正式に設立されたということになるわけです。

それから、試験問題作成のための教科書の編纂、検定委員資格者の養成のための指導員免許取得の啓蒙、防水施工検定試験の実施に向けて、労働省と関係機関である中央職業能力開発協会と連携して専門調査員を東部アスから送り、所定の作業を終了して技能検定試験を実施するという段階になったわけです。

それで、資料の中に「防水施工技能検定作業の変遷」(表2)というものがございしますが、平成17年の今日現在で書いてあるのですが、昭和51年度にまずアスファルト防水工事作業を皮切りにしてウレタンゴムが52年、合成ゴム系シートが同じく52年。塩化ビニル系シートも52年。53年にセメ

ント系。それから、同じく53年にシーリング、それから60年にアクリルゴム系塗膜、平成9年に改質アスファルトシートトーチ工法です。それから、13年にFRP防水が実施されております。なお防水施工職種の等級は1級と2級の2種類のみで実施されております。このようにして順調に防水施工の検定が9作業、現在も全国で実施されているわけです。ただコンクリート・プレハブ建築防水工事作業に関しましては、残念ながら受検者数がほとんど0になるまでに減りましたので、平成12年度に廃止ということになっているわけです。

それから資料の中に、平成16年度までの1、2級の合格者数の推移を表(表3)にしてあるものがございします。初年度の昭和51年度から平成16年度までです。縮小コピーしてありますので、ちょっと字が小さいので見にくいかと思ひます。コンクリートプレハブを入れて10作業あわせて全部で1、2級技能士は47,309名の合格者がいるわけです。これからも技能検定は、今年度以降もずっと続いていくわけで、やっぱり技能検定というのは、防水工事業者にとっては1つの大きなイベントというか、いろいろなものを含んでいるものです。正常な技能検定ということで、われわれ全防協としては、これからも努力していきたいと考えております。

大分端折ってお話しましたので、分かりにくいところがあったかもしれませんが、また何か質問がありましたら、後程のパーティーのときにでも伺いたしたいと思います。冒頭に申し上げましたように、工種、それから業種の認定取得に始まった全アス連の設立から、全防連の設立にと移行した防水工事業界創世の流れが現在の社団法人全国防水工事業協会の誕生というものに、つながっているわけがございします。それと同時に、29年間にわたる防水施工職種の技能検定試験の継続実施という輝かしい実績を今日に伝えているわけです。

今、建設業では、技術と技能を受け継ぐ伝承の仕組みが失われているということがよく言われているわけですが、けれども、もう一度、われわれ工事業者はものづくりの原点に立ち返って伝承の仕組みを途絶させないようにすることが、われわれ工事業者の務めではないかと考えております。本日から100年後の輝かしい防水工事業界の発展を夢見ながら私の話を終わらせていただきたいと思います。時間の関係で端折りましたこととお詫びいたします。ご静聴を感謝申し上げます。

表3 年度別「防水施工」技能士資格取得状況

作業別 級別	シーリング防水		セメント系防水		ウレタン系防水		アクリル系防水		アスファルト防水		改質7カラムシート防水		合成ゴム系シート防水		塩化ビニル系シート防水		コンクリート・プレハブ躯体		FRP防水		合計	
	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級
昭和51年度									178	136											178	136
昭和52年度					156	281			211	152			186	278	61	60					614	771
昭和53年度	85	269	49	28	130	237			142	136			144	310	38	52					588	1,032
昭和54年度	137	299	61	25	83	193			105	116			108	171	34	42	23	25			551	871
昭和55年度	121	237	56	6	80	183			195	130			137	180	24	31	19	23			632	790
昭和56年度	252	368	65	12	224	243			240	97			208	199	58	37	23	20			1,070	976
昭和57年度	173	244	49	2	114	150			186	88			131	104	56	21	13	18			722	627
昭和58年度	106	206	31	9	127	87			103	40			123	91	29	9	8	15			527	457
昭和59年度	123	211	44	4	145	126			123	32			151	97	37	29	11	7			634	506
昭和60年度	130	202			69	53		225	103	35			104	86	28	11					647	490
昭和61年度	118	218	33	3	103	86		154	87	34			116	84	41	13	14	9			662	534
昭和62年度	84	155			113	81		220	95	29			121	48	38	15					715	423
昭和63年度	194	240	46	6	128	77		179	82	29			170	75	85	20	24	6			985	535
平成1年度	197	262			122	86		155	52	19			143	67	67	18					784	504
平成2年度	194	247	23	1	131	92		74	43	33			110	106	98	30	3	7			708	559
平成3年度	161	294			114	145		78	39	39			152	103	92	46					685	666
平成4年度	187	232	46	5	145	159		75	35	36			145	113	77	52	5	14			774	646
平成5年度	188	267	61	5	167	129		133	35	22			125	112	59	44					800	614
平成6年度	337	481	53	6	217	192		140	39	44			138	108	93	58					1,071	928
平成7年度	320	357	68	7	191	214		115	41	34			134	107	89	39	9	18			1,022	817
平成8年度	278	386	50	8	189	192		71	44	43			146	88	100	54					931	815
平成9年度	346	404	48	7	226	207		85	36	31	256	36	112	86	103	57	3	4			1,284	868
平成10年度	372	299	56	5	293	196		56	28	28	233	43	105	101	116	61					2,152	761
平成11年度	409	366	52	15	274	224		80	28	20	193	29	132	67	107	67	0	0			1,310	816
平成12年度	355	295	44	4	340	211		56	18	34	108	27	117	77	160	52	0	0			1,262	718
平成13年度	460	266	32	5	291	188		34	24	22	164	34	138	62	137	37	0	0	99		1,645	737
平成14年度	422	320	34	11	327	157		39	14	25	111	27	119	44	125	51	0	0	152		1,677	801
平成15年度	498	237	30	5	304	134		60	27	14	115	12	120	29	125	30	0	0	131		1,650	619
平成16年度	630	239	50	5	501	137		131	20	21	149	18	164	24	218	28	0	0	61		2,310	553
計	6,877	7,601	1,081	184	5,304	4,460	2,160	890	3,407	1,519	1,329	226	3,799	3,017	2,295	1,064	155	166	443	1,332	27,739	19,570

(単位：名)

(社)全防協調査による

# 「平成17年度防水施工管理技術者 認定試験」合格者発表

(社)全国防水工事業協会(高山宏会長)は10月17日に行った「平成17年度(第3回)防水施工管理技術者認定試験」の結果を11月30日に発表しました。合格者数はⅠ種(屋根・屋内・地下・水槽等)が123名、Ⅱ種(外壁等)が13名。

本制度は、防水工事に関する経験と知識を有する技術者を公正に評価し、優れた防水施工管理技術者を育成することを目的に、当協会が独自に実施しているもの。第1回から第3回までの試験合格者数の累計は、Ⅰ種が245名、Ⅱ種が32名となりました。

合格者氏名並びに所属企業は次の通りです(受験番号順、敬称略)。

Ⅰ種	
《氏名》	《会社名》
河野 政治	井上瀝青工業(株)
菊地 俊英	井上瀝青工業(株)
森川 陸	ヤマト工業(株)
湯澤 和樹	瀝青建材(株)
大谷 登	(株)ケーエス
塩沢 幸雄	日新建工(株)
多賀 修	日新建工(株)
森永 義孝	日新建工(株)
伊藤 正	(株)ヨコソー
関寺 太郎	中村瀝青工業(株)(東京)
高野 信之	オセオ防水工業(株)
栗原 秀行	奥山化工業(株)
八代 充	高山工業(株)
新 邦治	高山工業(株)
吉田 宗弘	高山工業(株)
齋藤 光雄	奥山化工業(株)

早田 大介	竹内塗装(株)
加瀬澤 盛隆	(株)O. R. N
庭田 邦明	(株)O. R. N
宮澤 正美	(株)O. R. N
相原 静夫	(有)相原防水工業
栗原 桂一	中村瀝青工業(株)(東京)
加藤 正巳	大栄(株)
岡崎 研	(株)マサル
吉田 幸介	丸山工業(株)
地主 富雄	三星産業(株)
上原 勉	鍋林建工(株)
松山 浩	北川瀝青工業(株)
吉川 史樹	北川瀝青工業(株)
林 慶哉	北川瀝青工業(株)
小出 智弘	北川瀝青工業(株)
渡辺 秀介	北川瀝青工業(株)
黒田 泉	(株)丸協
稲川 一男	丸稲興業(株)
佐藤 裕美	(有)いけだ建工
小島 一元	一公工業(株)
鮫島 義博	中田工業(株)
森 哲夫	日新建工(株)
金野 眞一	日新建工(株)
開發 邦彦	開發(株)
相原 房義	開發(株)
長澤 智	(株)東和
山口 泰弘	日新商事(株)
早田 聡志	草野工業(株)
吉里 哲朗	日興工業(株)
進藤 博史	日建工材(株)
北山 忠昭	北川瀝青工業(株)
中田 昇	北川瀝青工業(株)
押田 常泰	北川瀝青工業(株)
谷口 典伸	北川瀝青工業(株)
林 誠次郎	北川瀝青工業(株)



中村 勝吉	北川瀝青工業(株)
森田 直幸	北川瀝青工業(株)
房川 浩二	新明防水工業(株)
山川 隆司	(株)メイコウ
友長 悟	フタバ興業(株)
吉永 達郎	日新建工(株)大阪
清水 龍晴	(株)ベース
山崎 裕之	(株)ベース
木原 伸介	(有)藤井技建工業
平川 征司	乾工業(株)
畠山 清至	北川瀝青工業(株)
鎌田 昌	山陰防水工業(株)
竹内 嘉浩	(株)ベルテック
中村 高明	中村瀝青工業(株)(兵庫)
久米 廣明	日新建工(株)大阪
橘 悟史	山陽化研(株)
小濱 正一	(株)南海ラス張商会
内藤 斉	丸星工業(株)
菅原 浩二	三星産業(株)
山本 智文	(株)ベルテック
飼手 英明	山一建材工業(株)
金光 次郎	(株)伏見工業
林 泰弘	三星産業(株)
生野 行利	(株)生野
麻村 健	丸福建材工業(株)
齋藤 祐一	(株)森建工事
奥住 幸男	関西防水工業(株)
林 英治	中外商工(株)



大西 裕貴 (株)三洋技建	有吉 研一 高稲工業(株)	米森 健一郎 (株)北原建材商会
福原 正康 (株)アイチテクノ	吉村 和則 双葉工業(株)	森内 恵太 西照工業(株)
山崎 邦弘 (株)ゼンシン工業	溝口 浩司 南日防水工業(株)	高岡 康憲 (株)京都防水センター
池田 勝博 (資)明光建材	渋谷 勝彦 安藤工事(株)	
木曾 英俊 木曾建材工業(株)	堤 和行 安藤工事(株)	<b>Ⅱ種</b>
馬場 弘 中央建材工業(株)	堤 啓太 安藤工事(株)	《氏名》 《会社名》
早川 誠二 長登工業(株)	永松 康嗣 安藤工事(株)	山口 邦廣 竹内塗装(株)
秦 秀樹 (株)協和理研	河野 敏浩 安藤工事(株)	諏訪 雪夫 (有)神原防水工業
細江 透 (株)ウオーター・プルーフ・エノキヤ	渡嘉敷 勝彦 安藤工事(株)	大倉 将彦 (株)ケルビン
田中 一郎 アサヒ工材(株)	立元 宣隆 安藤工事(株)	内藤 光雄 丸星工業(株)
矢野 祐司 錦海防水(有)	大川内 豊樹 安藤工事(株)	藤本 明男 (株)アルファ技研
嬉野 準二 高稲工業(株)	牧野 倫幸 誠産業(株)	福村 弘文 (株)山建
椎 保嘉 (有)宮崎日光工業	角 信也 安藤工事(株)	岩崎 寿博 乾工業(株)
木村 長生 (株)キムラ商工	長野 恒男 大栄(株)	清水 睦 (株)三洋技建
有田 昌史 レヂボンケミカル(株)	出羽 正幸 大栄(株)	西出 達司 高稲工業(株)
平川 洋一 高稲工業(株)	戸田 光一 安藤工事(株)	福田 順一 双葉工業(株)
木下 隆弘 高稲工業(株)	永澤 通 大栄(株)	立川 登 安藤工事(株)
西山 俊英 高稲工業(株)	徳元 章裕 沖縄古賀防水工業(株)	遠山 誠也 誠産業(株)
吉村 和雄 (株)工材社	竹村 敦博 西照工業(株)	野方 稔 安藤工事(株)
竹村 圭一 (株)工材社	岩本 慶太 アオケン(株)	
林 昇一 (有)大分樹脂防水		

## 防水立上がり部乾式保護工法工業会

### 正会員(五十音順)

アーキヤマデ株式会社	TEL 06-6385-1379 FAX 06-6385-1351	ドラーフタイト工業株式会社	TEL 042-545-6002 FAX 042-545-6008
アイエス興産株式会社	TEL 03-3307-5151 FAX 03-3307-7360	日新工業株式会社	TEL 03-5644-7214 FAX 03-5644-7219
昭和電工建材株式会社	TEL 03-5470-3124 FAX 03-3438-3539	白水興産株式会社	TEL 03-3431-9713 FAX 03-3431-9708
田島ルーフィング株式会社	TEL 03-5821-7720 FAX 03-3864-7555		

事務局：〒111-0052 東京都台東区柳橋1-9-10 (アーキヤマデ(株)東京支店内) TEL 03-3861-1615 FAX 03-3861-1165

Best Partner

## 株式会社 K.Cアスカ

URL: <http://www.kc-asuka.co.jp>

東京 〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-8-15 東京ファスナービル TEL 03-5687-8391 FAX 03-5687-0984  
 横浜 〒231-0006 神奈川県横浜市中区南仲通3-32-1 みなとファンタジアビル TEL 045-211-2801 FAX 045-211-2606

# アスベスト問題に係る対策について

石綿による健康被害を防止するため、建設業界に対しても昨年夏から関係官庁の通知等が多数出されています。その中から主要な通知並びに12月27日に政府がとりまとめた「アスベスト問題に係る総合対策」の概要を以下に掲載します。なお、「石綿による健康被害の救済に関する法律案」の今国会での成立が見込まれています。

基安発第0726004号  
平成17年7月26日

(社)建設産業専門団体連合会会長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部長

## 石綿を含有する在庫品の使用等の停止について

労働安全衛生行政の推進につきましては、平素よりご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、石綿を含有する在庫品については、平成15年11月19日付け基発第1119005号「石綿含有製品の製造等禁止に係る労働安全衛生法施行令の改正について」により、使用している製品中の石綿含有製品の有無を確認し、石綿含有製品を使用している場合は、今後新たに導入する製品については無石綿製品に転換するよう要請していたところです。

施行日前に製造され、又は輸入された製品については、施行日以降も使用等ができることとされていますが、石綿の有する有害性により、石綿を含有する物の製造等が禁止された趣旨に加え、石綿被害が社会的な問題となっている今般の状況に鑑みると、施行日以前に製造された石綿を含有する在庫品についても、新たな使用等を直ちに停止することが強く求められています。

つきましては、これら状況をご理解のうえ、在庫品の新たな使用等を直ちに停止するよう貴協会会員に対して、周知、徹底をお願いいたします。

基安発第0920005号  
平成17年9月20日

(社)建設産業専門団体連合会会長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部長

## 石綿を使用している製品の代替化の促進について

労働安全衛生行政の推進につきましては、平素より御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、石綿含有製品について、経済産業省の調査により、石綿を含有する家庭用品の製造、輸入等が行われていることが明らかになりました。

石綿による健康被害が社会的な問題となっていることから、平成16年10月1日から労働安全衛生法の規定に基づき、石綿を含有する建材、摩擦材及び接着剤については、製造、輸入、譲渡、提供又は使用が禁止されているところですが、これら以外の製品についても、速やかに代替化を行い無石綿の製品にすることが強く求められています。

このため、政府として、現在、製造等が禁止されていない石綿含有製品についても、早期に代替品への転換を進め、石綿の使用等の全面禁止が行えるよう検討を行っているところでありますが、貴協会におかれては、貴協会会員に対し、現在石綿を使用している製品については、自らが率先して直ちに代替化を図り、無石綿の製品にするよう周知、徹底方お願いします。

基安発第0920002号  
平成17年9月20日

(社)建設産業専門団体連合会会長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部長

## 石綿を含有する建材、摩擦材、接着剤及びこれらを使用する製品の製造、輸入、譲渡、提供又は使用の禁止等について

労働安全衛生行政の推進につきましては、平素より御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、今般、石綿が一部の自転車製造業者が輸入した

幼児用自転車のブレーキライニングに使用されている事案及び一部の接着剤製造業者が製造した接着剤に石綿が使用されていると思われる事案が明らかになりました。石綿を1%を超えて含有する建材、摩擦材及び接着剤については、平成16年10月1日から、労働安全衛生法第55条の規定に基づき、製造、輸入、譲渡、提供又は使用が禁止されているところです。

つきましては、貴協会会員に対し、法令の遵守について徹底するとともに、下記事項について改めて周知するようお願いいたします。

#### 記

1. 石綿を1%を超えて含有する建材（石綿セメント円筒、押出成形セメント板、住宅屋根用化粧スレート、繊維強化セメント板及び窯業系サイディング）、摩擦材（クラッチフェーシング、クラッチライニング、ブレーキパッド及びブレーキライニング）及び接着剤については、別添のとおり、労働安全衛生法第55条の規定に基づき、製造、輸入、譲渡、提供又は使用をしてはならないこと。

また、これらのものを部品とする製品を輸入等をすることも禁止されていること。

2. 平成17年7月26日に、平成16年9月30日以前に製造され又は輸入された建材の在庫品については、譲渡等を直ちに停止するよう要請したところであるが、石綿による健康被害が社会的な問題となっていることから、摩擦材及び接着剤の在庫品についても、譲渡等を直ちに停止することが強く求められること。

#### 別添

##### ○労働安全衛生法（抄）

##### ・第55条（製造等の禁止）

黄りんマッチ、ベンジジン、ベンジジン含有する製剤その他労働者に重度の健康障害を生ずる物で、政令で定めるものは、製造し、輸入し、譲渡し、提供し、又は使用してはならない。

（以下略）

##### ○労働安全衛生法施行令（抄）

##### ・第16条（製造等が禁止される有害物等）

法第55条の政令で定める物は、次のとおりとする。

4 アモサイト

5 クロシドライト

9 石綿（第4号及び第5号に掲げる物を除く。以下この号において同じ。）を含有する別表第8の2に掲げる製品で、その含有する石綿の重量が当該製品の重量の1パーセントを超えるもの

（1号～3号、6号～8号、10号～11号 略）

##### ・別表第8の2 石綿を含有する製品（第16条関係）

- 1 石綿セメント円筒
- 2 押出成形セメント板
- 3 住宅屋根用化粧スレート
- 4 繊維強化セメント板
- 5 窯業系サイディング
- 6 クラッチフェーシング
- 7 クラッチライニング
- 8 ブレーキパッド
- 9 ブレーキライニング
- 10 接着剤

基安発第0930001号

平成17年9月30日

(社)建設産業専門団体連合会会長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部長

石綿障害予防規則に基づく措置の遵守徹底に係る協力  
依頼について

厚生労働行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、石綿による健康被害の拡大を防止するため、厚生労働省におきましては、事業者に対して石綿障害予防規則に基づく措置の遵守の徹底を図っているところですが、先般、緊急的な対応として石綿含有製品を製造し又は取り扱っていると考えられる事業場に対して監督指導等を実施した結果、石綿に係る特殊健康診断が適正に行なわれていない、保護具の備付け及び使用が適正に行なわれていないなど、法令が遵守されていない例が見られることから、改めて労働安全衛生法及び石綿障害予防規則に基づく措置の徹底を図ることといたしました。

つきましては、

①下記に掲げる石綿の取扱い等の作業を過去に行っていた事業場においては、当該作業に従事したことのある労働者に対して、石綿障害予防規則に基づき健

健康診断を確実に実施し、その結果を労働基準監督署へ報告すること

- ②現在も下記に掲げる石綿取扱い等の作業を行っている事業場においては、健康診断の実施・報告とともに、石綿障害予防規則に基づく各種措置を確実に実施すること

について、関係機関、傘下の団体、会員事業場等の関係者に対して周知等を図っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

また、厚生労働省においては、石綿の取扱い等の作業に従事し、すでに退職した方についても石綿に係る健康診断を実施していただくよう、事業者に対して要請を行っているところですが、改めて、関係機関、傘下の団体、会員事業場等の関係者に対して周知等を図っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、石綿に係る健康診断及び健康管理手帳のパンフレットを同封いたしますので、関係者に対する周知等にご活用ください。(注)

記

石綿取扱い等の作業として、健康診断を含め石綿障害予防規則に基づく措置が必要とされる作業としては、次のような作業が該当します。

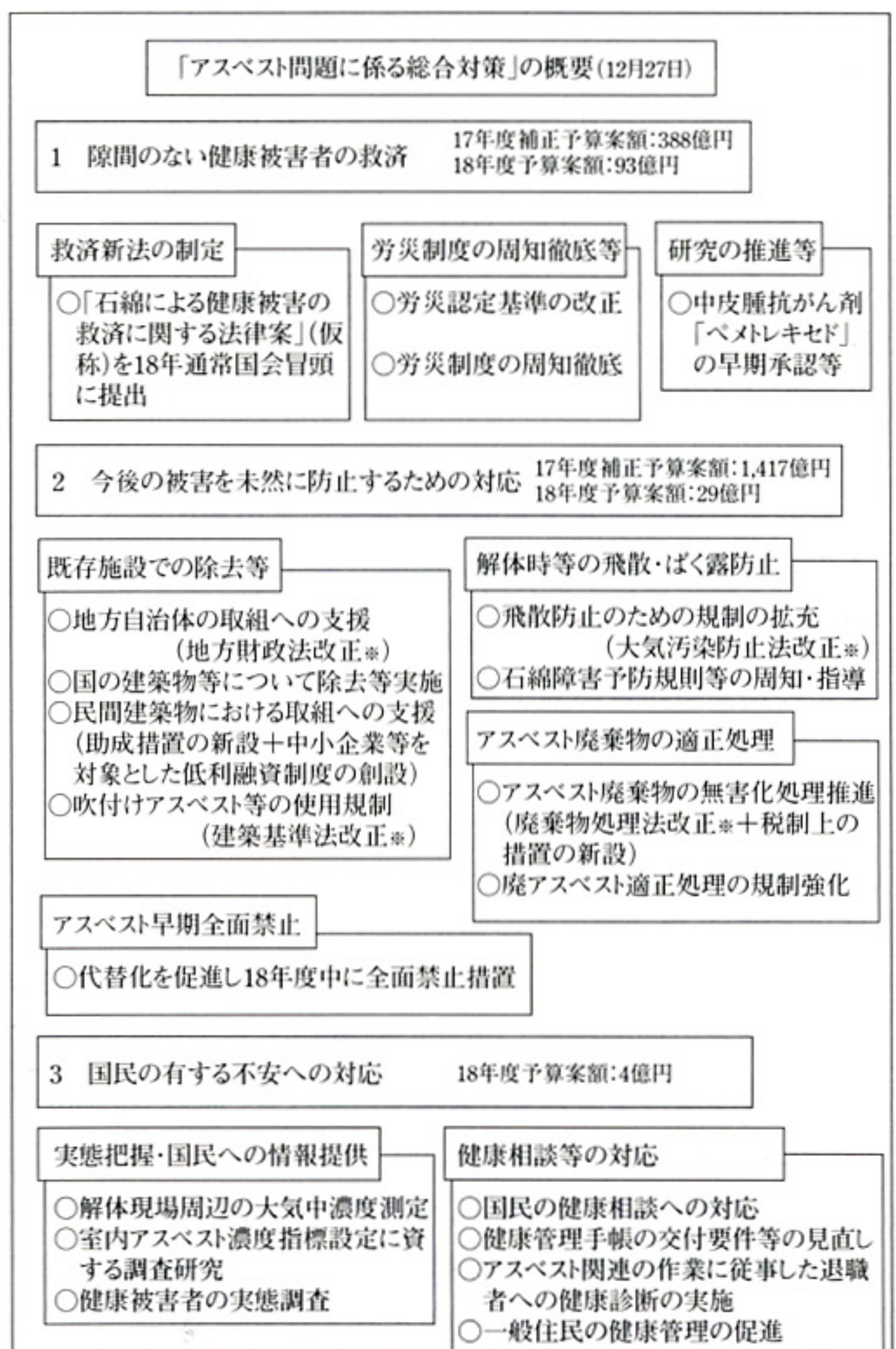
なお、これに含まれない作業であっても、石綿又は石綿をその重量の1%を超えて含有するものを発じんの恐れのある状態で製造し、又は取り扱う作業であれば石綿障害予防規則に基づく措置が必要となります。

- 1 石綿鉱山又はその附属施設において行う石綿を含有する鉱石又は岩石の採掘、搬出又は粉碎その他石綿の精製に関連する作業
- 2 倉庫内等における石綿原料等の袋詰め又は運搬作業
- 3 以下の石綿製品の製造工程における作業
  - ・石綿糸、石綿布等の石綿紡績製品
  - ・石綿セメント又はこれを原料として製造される石綿スレート、石綿高圧管、石綿円筒等のセメント製品
  - ・ボイラーの被覆、船舶用隔壁のライニング、内燃機関のジョイントシーリング、ガasket (パッキング) 等に用いられる耐熱性石綿製品
  - ・自動車、捲揚機等のブレーキライニング等の耐摩耗性石綿製品

・電気絶縁性、保温性、耐酸性等の性質を有する石綿紙、石綿フェルト等の石綿製品（電線絶縁紙、保温材、耐酸建材等に用いられている。）又は電解隔膜、タイル、プラスター等の充填材、塗料等の石綿を含有する製品

- 4 石綿の吹付け作業
- 5 耐熱性の石綿製品を用いて行う断熱若しくは保温のための被覆又はその補修作業
- 6 石綿製品の切断等の加工作業
- 7 石綿製品が被覆材又は建材として用いられている建物、その付属施設等の補修又は解体作業
- 8 石綿製品が用いられている船舶又は車両の補修又は解体作業
- 9 石綿を含有する蛇紋岩等の鉱石の粉碎作業

(注) 石綿に係る健康診断及び健康管理手帳のパンフレットの掲載は省略



(注1) ※は一括法(「石綿による健康等に係る被害の防止のための関係法律の整備に関する法律案」(仮称))として18年通常国会冒頭に提出。  
 (注2) 18年度予算案額は、関係閣僚会合を構成する関係省庁による対策に係る金額。  
 (注3) 18年度予算案額においては、施設整備等経費の交付金等(約1.4兆円)の内数となっているものについては含まれていない。

# 研修会、講習会等報告

## 〔関東・甲信支部〕

### ●第11回実務研修会

開催日：平成17年10月27日（木）、28日（金）、29日（土）

開催場所：東京都立品川技術専門校

テーマ：建設CAD初級（AutoCAD 2006）

※インストラクターが指導

参加人数：16名

### ●第12回実務研修会

開催日：平成17年11月1日（火）

開催場所：日本青年館

テーマ：①「防水施工法」の改訂内容について

②「建築工事監理指針 平成16年版（上巻）第9章  
防水工事」部分の改訂内容について

③「防水工事業における職業能力評価基準」の内容  
及び活用策について

参加人数：38名

## 〔近畿支部〕

### ●パソコン講習会

開催日：平成17年4月7日（木） 午後1時半～4時半

開催場所：大阪産業創造館（大阪府中央区）

テーマ：エクセル実践基礎「表計算」

参加人数：19名

### ●専門工事業総合補償制度説明会

開催日：平成17年6月17日（金） 午後5時～5時半

開催場所：新大阪シティプラザ（大阪府淀川区）

テーマ：建専連「専門工事業総合補償制度」について

※講師は支部関係者

参加人数：55名

### ●前期技能検定学科試験受検準備講習会

開催日：平成17年8月6日（土） 午後1時半～4時

開催場所：(財)大阪科学技術センター（大阪府西区）

テーマ：技能検定試験の学科講習〔建築一般・労働安全衛生・

建築防水一般・専門別防水（FRP・ウレタン）〕

参加人数：60名

### ●各種助成金及び電子入札についての基礎講習会

開催日：平成17年11月9日（水） 午後1時半～4時

開催場所：大阪産業創造館（大阪府中央区）

テーマ：①各種助成金に関する基礎

②電子入札入門

参加人数：32名

### ●「防水施工法2005年版」改訂内容及び「建築工事監理指針」関連事項に関する講習会

開催日：平成17年11月16日（水） 午後1時半～4時

開催場所：大阪産業創造館（大阪府中央区）

テーマ：①「防水施工法2005年版」改訂内容

②「建築工事監理指針 平成16年版」関連内容

参加人数：17名

## 〔四国支部〕

### ●「品確法」勉強会

開催日：平成17年10月5日（水） 午後1時半～3時半 他  
2回開催

開催場所：新居浜ユアーズ（愛媛県新居浜市）等

テーマ：公共工事の品質確保の促進に関する法律について

参加人数：各回15名程度

### ●電子入札体験セミナー

開催日：平成17年12月13日（火） 午後1時半～4時半

開催場所：四国電力(株)松山支店

テーマ：電子入札の体験

参加人数：15名

※、各県において開催予定。



中国建築防水材料工業会の陳会長（右）と筆者

特別ルポ：2005 中国建築防水技術国際展示会に参加して

## 今こそ施工技術の交流をすべきとき

派遣団団長（全防協理事） 濱野 信二

### 和やかな歓迎

2005年6月14日より17日にかけて、中国上海国際展示センターにおいて開催された「2005 中国建築防水技術国際展示会」に、(社)全国防水工事業協会の派遣団団長として出席してまいりました。同展示会は中国建築防水材料工業協会、中国建築材料集团公司およびアメリカのNRCA（全米ルーフィング業者連合会）との主催によるもので、中国国内および海外14ヶ国から約140社が出展していました。

全防協会員からの参加者は、出発する数ヶ月前に中国と韓国による“日本たたき”のテレビ、新聞の報道によって(?)激減し、去年の半分のわずか6名でしたが、予定通り13日午後からの中国の協会の役員さん達とのミーティングを行い、その晩は主催者役員、関係団体役員ならびに海外からの参加団体の役員による50人程の晩餐会に招待され、懇談いたしました。とりわけ“小池先生には大変お世話になった”と、同席した陳理事長との会話はお酒が進む程、話に花が咲きました。

出国前の“日本たたき”は全くウソのようでした。帰国する時には、小池先生に宛てたメッセージを預かって来ました。彼ら(中国の協会の役員方)が



写真1 テープカットのよう。右から2番目が筆者。その隣の女性 Olicia 嬢に“護衛”(?)してもらった。



写真2 中国建築防水材料工業会の首脳陣とのミーティングにて。右奥が朱専務理事。その手前が陳会長。

小池先生をはじめ、当時中国に招かれた大手ゼネコンの研究者達から本当に勉強したことが分かりました。同時に現在は、より高く、広く、確実に世界に向けて、全身全能を持って活発に活動していることが、ひしひしと受け取

られました。

翌日は9時からオープニングセレモニーということで会場の貴賓室に行きますと、テープカットに参列してほしいと事務局から言われ、一瞬私の頭は閃きました。大衆の目の前に



写真3 田島ルーフィングの出展ブース前にて、奥様である濱野トク子社長と共に。



写真4 レセプションでの各国代表による巨大なケーキの入刀式。左から2番目が筆者。



写真5 全防協派遣団一行。

出たら“生卵”をぶつけられるかもしれないと。同席しておりましたアメリカNRCAの国際関係委員会の担当者であるOlicia嬢にそのことを話しますと、“私がShinjiをエスコートするから私の隣に立ってよ?!”と。主催者側からの3人の長い挨拶の間、彼女はあえて私に話し掛けてくれ、面前の会衆から目を避ける思いやりをしてくれました。結果的には問題なく、無事テープカットを終えることができました。

この夜は前夜の晩餐会の招待客と出展社の代表者を交えた250人位のレセプションディナーに招かれ、海外からの参加5ヶ国の代表がステージに並び、会場の皆さんに紹介され、記念品の授与や巨大なケーキのカットを要請されました。“ギクシャクした日中関係の補正は各種それぞれの業界を通しての交流によって相互理解を図る以外ないだろう”と、ある評論家が言っていたのを、今回のコンベンションで確信した次第でした。

### これからの日中の防水に 思うこと

さて、コンベンションについて大まかなお話をいたしますと、主催者の冒頭の挨拶は、2010年までに6億人の人達を都会に住まわせるという政府の基本方針がある以上、建設ラッシュは止まることはない、海外の企業は更なる中国進出を考えてほしいというもので

した。SBSを主力とした屋上防水を先頭にして、勾配屋根はアスファルトシングルが主流となり、中小都市の平屋の改修工事は勾配屋根を敷設する指導がされているといわれ、アメリカのシングルメーカーが中国に初めての工場を建設したとの報告もなされました。

防水材料、施工法などについては、日本にあるもの全部が市場に出回っているようです。材料によっては原料を輸入し、中国で加工しているものもあると聞きました。シーリング工事については、高層ビルの設計やコンサルタントが欧米の企業によって発注されると、全く構造体が日本とは違うので市場確保は難しいと聞きました。また、北京市内で建設されている平均建築面積は67,180㎡だそうで、多くは10,000㎡から30,000㎡だと聞きました。

前回と今回の2回にわたる、このイベントへの訪問で感じたことを申し上げますと、近い将来中国において主要基本原料である石油の発掘が行われ、さらに隣国のロシアから石油の供給を低価格で受けることになるのは必然と思われる。防水材料全てが海外からのノウハウで製造され、施工されている中国の実情を見て、我々工事業者が持っているノウハウを提供し、施工面においてより高度で信頼性のある作業を伝えるべきだと思います。なぜならば、原料の価格の違いから製造された、本当の意味のリーズナブルな防水材料が日本に出回ったとき、同じ施工



写真6 今回の展示会のガイドブック。中国語、英語の2ヶ国語が使われている。次回は、2006年11月30日～12月3日、北京市において開催される。

方法で作業ができるように、今こそ施工技術の交流をするべきではないかと思うわけです。

理事長が私に、小池先生へのメッセージを託したという事実は、中国の防水同業者は、私共（日本）に悪意は持っていないということを皆様にお伝えして報告とさせていただきます。

最後に、この度の訪問先の上海で行われましたコンベンションへの参加にあたり、サンスター技研(株)、大関化学工業(株)および田島ルーフィング(株)の現地社員の皆様から、上海滞在中昼夜を問わず、国内にいる以上に何不自由なく献身的な働きをしていただき、本当にありがたく、感謝し厚く御礼申し上げます。感謝、感謝。

# 全防協関係の表彰者紹介

## 高山会長に黄綬褒章

2005年春の叙勲・褒章で当協会の高山宏会長（高山工業・東京都）が黄綬褒章を受章しました。

高山氏は当協会会長のほか全国アスファルト協同組合連合会会長など業界団体の役員として業界の発展に尽力され、貢献されてきたことが評価されました。

また、他団体の推せんにより、北川泰信前常任理事（北川瀝青工業・石川県）が旭日双光章を、木村光徳氏（木村工業・愛知県）が黄綬褒章を受章されました。



高山宏会長

## 鹿島理事に国土交通大臣表彰

2005年度の建設事業関係功労者として、当協会の鹿島喜八郎理事（O.R.N・東京都）が永年に亘る建設業への貢献を評価され、国土交通大臣表彰を受賞しました。当協会関係では、坂倉徹氏（サクラ・神奈川県）、和中裕氏（和中商店・大阪府）が他団体の推せんにより国土交通大臣表彰を受賞されました。

また、建設労働者の雇用改善への貢献で、当協会の邊見仁統括主管が「建設雇用改善推進月間」における国土交通大臣表彰を受賞しました。



鹿島喜八郎理事

## 坂上理事に旭日双光章

2005年秋の叙勲・褒章で他団体の推せんにより当協会の坂上達郎理事（アオケン・福岡県）が旭日双光章を、また当協会関係では山崎文治氏（山忠・茨城県）が黄綬褒章を受章されました。



坂上達郎理事

## 全防協会員から2氏が技能検定関係功労で厚生労働大臣表彰

平成17年度の職業能力開発関係表彰式において、当協会関係では、竹村修身氏（五十鈴・長野県）、太田廣道氏（静岡コーキング工業・静岡県）の2氏が技能検定関係功労で厚生労働大臣から表彰されました。

## 全防協会員から4氏が優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）受章

「平成17年度優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）」顕彰式典において、当協会から推薦の防水工として渡部一郎氏（日本防水総業・北海道）、北村理晴氏（北村工業所・愛知県）、坂本将氏（坂本防水工事・山口県）、重野守氏（シゲノ工業・長崎県）の4名が表彰されました。



防水施工技能検定協力団体調査

(平成17年12月)

都道府県別	シーリング防水	セメント系防水	ウレタン系塗膜防水	アクリル系塗膜防水	アスファルト防水	各種アスファルトシート工法防水	合成ゴム系シート防水	塩化ビニル系シート防水	FRP防水
北海道	北海道シーリング工事業協同組合 シーリング部(札幌)	北海道塗膜防水工事業協会	北海道塗膜防水工事業協会	—	北海道アスファルト防水工事業協同組合	北海道アスファルト防水工事業協同組合	北海道シート防水工事業協会	ロンプルー防水事業協同組合北海道支部	北海道塗膜防水工事業協会
秋田県	秋田県シーリング協会 秋田支部	—	秋田県建築防水工事業組合	—	秋田県建築防水工事業組合	秋田県建築防水工事業組合	秋田県建築防水工事業組合	秋田県建築防水工事業組合	秋田県建築防水工事業組合
青森県	青森県シーリング防水協会	—	—	—	—	—	—	青森県防水工事業協会	青森県防水工事業協会
岩手県	東北シーリング工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合	—	岩手県防水工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合	岩手県防水工事業協同組合
宮城県	東北シーリング工事業協同組合	—	宮城県防水工事業協同組合	—	東部アスファルト工事業協同組合東北支部	宮城県防水工事業協同組合	宮城県防水工事業協同組合	ロンプルー防水事業協同組合東北支部	宮城県防水工事業協同組合
山形県	山形県防水工事業組合	山形県防水工事業協同組合 左官工事業協同組合	山形県防水工事業組合 左官工事業協同組合	山形県防水工事業組合 左官工事業協同組合	山形県防水工事業組合	山形県防水工事業組合	山形県防水工事業組合	山形県防水工事業組合	山形県防水工事業組合
福島県	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合	福島県総合防水工事業協同組合
茨城県	茨城県防水工事業連合会	—	茨城県防水工事業連合会	茨城県塗装工業組合	—	茨城県防水工事業連合会	茨城県防水工事業連合会	茨城県防水工事業連合会	—
群馬県	群馬県防水工事業協同組合	—	群馬県防水工事業協同組合	群馬県塗装看板協同組合	群馬県防水工事業協同組合	群馬県防水工事業協同組合	群馬県防水工事業協同組合	群馬県防水工事業協同組合	群馬県防水工事業協同組合
栃木県	栃木県防水技能士育成会	—	栃木県防水技能士育成会	—	—	栃木県防水技能士育成会	栃木県防水技能士育成会	栃木県防水技能士育成会	—
埼玉県	埼玉県建設防水工事業協同組合	—	埼玉県建設防水工事業協同組合	—	—	埼玉県建設防水工事業協同組合	埼玉県建設防水工事業協同組合	埼玉県建設防水工事業協同組合	埼玉県建設防水工事業協同組合
千葉県	千葉県建設防水工事業協同組合	—	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合	千葉県建設防水工事業協同組合
東京都	東日本シーリング工事業協同組合	東日本建設防水協同組合	東京都塗膜防水技能検定協議会	東京都アクリルゴム技能検定協議会	東部アスファルト工事業協同組合	東部アスファルト工事業協同組合	東京都防水工事業協会	東京都防水工事業協会	東京都塗膜防水技能検定協議会
神奈川県	神奈川県建設防水事業協同組合	—	神奈川県建設防水事業協同組合	—	—	神奈川県建設防水事業協同組合	神奈川県建設防水事業協同組合	神奈川県建設防水事業協同組合	神奈川県建設防水事業協同組合
山梨県	山梨県建設防水協会	—	山梨県建設防水協会	—	山梨県建設防水協会	—	山梨県建設防水協会	山梨県建設防水協会	山梨県建設防水協会
長野県	長野県防水事業協会	—	長野県防水事業協会	—	長野県防水事業協会	長野県防水事業協会	長野県防水事業協会	長野県防水事業協会	長野県防水事業協会
静岡県	静岡県シーリング工事業協同組合	—	静岡県防水工事業協会	静岡県塗表看板組合連合会	静岡県防水工事業協会	静岡県防水工事業協会	静岡県防水工事業協会	静岡県防水工事業協会	静岡県防水工事業協会
愛知県	中部シーリング工事業協同組合	—	(メーカ指導型)愛知県ウレタン塗膜防水技能検定推進協議会	愛知県アクリルゴム防水技能検定推進協議会(東亜合成)	東部アスファルト工事業協同組合中部北陸支部	全防協中部支部	三ツ星ベルト(株)	ロンプルー防水事業協同組合東海支部	全防協中部支部
三重県	三重県職業能力開発協会	—	三重県職業能力開発協会	—	三重県職業能力開発協会	三重県職業能力開発協会	三重県職業能力開発協会	三重県職業能力開発協会	—
岐阜県	岐阜県防水事業協会	—	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会	岐阜県防水事業協会
新潟県	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合	新潟県防水工事業協同組合
富山県	富山県シーリング工事業協同組合	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会	富山県防水工事業協会
石川県	石川県シーリング工事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合	石川県防水事業協同組合
福井県	福井県シーリング工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合	福井県防水工事業協同組合

都道府県別	シーリング防水	セメント系防水	ウレタンゴム系塗膜防水	アクリルゴム系塗膜防水	アスファルト防水	変質アスファルトシート工法 西部アスファルト工事業 協同組合	合成ゴム系シート防水	塩化ビニル系シート防水	FRP防水
大阪府	関西シーリング工事業 協同組合	西日本建設防水協同組合	関西塗膜防水工事業協会	関西塗膜防水工事業協会 協同組合	西部アスファルト工事業 協同組合	西部アスファルト工事業 協同組合	大阪府建築リフォーム 協同組合	大阪府建築リフォーム 協同組合	全防協近畿支部
京都府	京都建築防水協会 京都防水工事業協会	—	京都府塗装工業協同組合	京都府塗装工業協同組合	—	京都防水工事業協会	京都府建築リフォーム 協同組合	京都府建築リフォーム 協同組合	京都建築防水協会 京都防水工事業協会
滋賀県	滋賀県防水技術協議会	滋賀県左官工業組合	日本塗装技術センター	日本塗装技術センター	—	—	—	—	—
奈良県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山県	和歌山県防水工事業協同組合	—	和歌山県防水工事業協同組合	和歌山県防水工事業協同組合	和歌山県防水工事業協同組合	—	和歌山県防水工事業協同組合	和歌山県防水工事業協同組合	—
兵庫県	神戸防水協会	—	神戸防水協会	—	—	—	神戸防水協会	—	—
岡山県	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合	岡山県防水工事業協同組合
広島県	中国シーリング工事業 協同組合	全防協中国支部	全防協中国支部	中国塗膜防水工業会	全防協中国支部	全防協中国支部	全防協中国支部	全防協中国支部	中国塗膜防水工業会
山口県	山口県職業能力開発協会	—	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会	山口県職業能力開発協会
鳥取県	鳥取県防水工事業協同組合	—	鳥取県防水工事業協同組合	鳥取県防水工事業協同組合	—	鳥取県防水工事業協同組合	鳥取県防水工事業協同組合	鳥取県防水工事業協同組合	鳥取県防水工事業協同組合
島根県	島根県防水工事業協会	—	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会	島根県防水工事業協会
徳島県	徳島県防水工事業協同組合	—	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合	徳島県防水工事業協同組合
香川県	四国シーリング工事業 協同組合 香川支部	—	香川県防水工業協会	塗装工業会香川支部	香川県防水工業協会	香川県防水工業協会	香川県防水工業協会	香川県防水工業協会	香川県防水工業協会
愛媛県	愛媛県防水工事業協同組合	—	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合	愛媛県防水工事業協同組合
高知県	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合	高知県防水工事業協同組合
福岡県	九州シーリング工事業 協同組合	—	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会	福岡県防水工事業協会
大分県	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合	大分県防水工事業協同組合
佐賀県	佐賀県防水工事業協会	—	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会	佐賀県防水工事業協会
長崎県	長崎県防水工事業協同組合	—	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合	長崎県防水工事業協同組合
熊本県	熊本県防水工事業協会	—	熊本県防水工事業協会	熊本県防水工事業協会	熊本県防水工事業協会	熊本県防水工事業協会	熊本県防水工事業協会	熊本県防水工事業協会	—
宮崎県	宮崎県防水工事業協同組合	—	宮崎県防水工事業協同組合	宮崎県防水工事業協同組合	宮崎県防水工事業協同組合	宮崎県防水工事業協同組合	宮崎県防水工事業協同組合	宮崎県防水工事業協同組合	—
鹿児島県	鹿児島県防水工事業協同組合	—	鹿児島県防水工事業協同組合	—	鹿児島県防水工事業協同組合	—	鹿児島県防水工事業協同組合	鹿児島県防水工事業協同組合	—
沖縄県	沖縄県防水工事業協会	—	沖縄県防水工事業協会	沖縄県防水工事業協会	沖縄県防水工事業協会	沖縄県防水工事業協会	—	—	沖縄県防水工事業協会

年度別「防水施工」技能士資格取得状況

(単位：名)

作業別 級別	シーリング防水		セメント系防水		ウレタンゴム系防水		アクリルゴム系防水		アスファルト防水		改質アスファルト防水		合成ゴム系シート防水		塩化ビニル系シート防水		コンクリート・プレハブ壁防水		FRP防水		合計	
	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級	1級	2級
昭和51年度									178	136											178	136
昭和52年度					156	281			211	152			186	278	61	60					614	771
昭和53年度	85	269	49	28	130	237			142	136			144	310	38	52					588	1,032
昭和54年度	137	299	61	25	83	193			105	116			108	171	34	42					551	871
昭和55年度	121	237	56	6	80	183			195	130			137	180	24	31					632	790
昭和56年度	252	368	65	12	224	243			240	97			208	199	58	37					1,070	976
昭和57年度	173	244	49	2	114	150			186	88			131	104	56	21					722	627
昭和58年度	106	206	31	9	127	87			103	40			123	91	29	9					527	457
昭和59年度	123	211	44	4	145	126			123	32			151	97	37	29					634	506
昭和60年度	130	202			69	53			91	35			104	86	28	11					647	490
昭和61年度	118	218	33	3	103	86			83	34			116	84	41	13					662	534
昭和62年度	84	155			113	81			139	29			121	48	38	15					715	423
昭和63年度	194	240	46	6	128	77			159	29			170	75	85	20					985	535
平成1年度	197	262			122	86			100	19			143	67	67	18					784	504
平成2年度	194	247	23	1	131	92			75	33			110	106	98	30					708	559
平成3年度	161	294			114	145			88	39			152	103	92	46					685	666
平成4年度	187	232	46	5	145	159			94	36			145	113	77	52					774	646
平成5年度	188	267	61	5	167	129			67	22			125	112	59	44					800	614
平成6年度	337	481	53	6	217	192			93	44			138	108	93	58					1,071	928
平成7年度	320	357	68	7	191	214			96	34			134	107	89	39					1,022	817
平成8年度	278	386	50	8	189	192			97	43			146	88	100	54					931	815
平成9年度	346	404	48	7	226	207			105	31			146	36	103	57					1,746	868
平成10年度	372	299	56	5	293	196			70	28			105	101	116	61					1,301	761
平成11年度	409	366	52	15	274	224			63	20			132	67	107	67					1,310	816
平成12年度	355	295	44	4	340	211			82	34			117	77	160	52					1,262	718
平成13年度	460	266	32	5	291	188			85	22			138	62	137	37					1,645	737
平成14年度	422	320	34	11	327	157			116	25			119	44	125	51					1,677	801
平成15年度	498	237	30	5	304	134			82	14			120	29	125	30					1,650	619
平成16年度	630	239	50	5	501	137			139	21			164	24	218	28					2,310	553
平成17年度	487	132	29	0	444	123			1	0			1	1	0	0					1,385	343
計	7,364	7,733	1,110	184	5,748	4,583	2,224	901	3,408	1,519	1,337	227	3,800	3,018	2,295	1,064	155	166	1,683	518	29,124	19,913

(社)全防協調査による ※平成17年度は前期合格発表分まで。

## 本部役員・支部役員名簿

### ●本部役員

(平成17年度)

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
会長	高山 宏	高山工業(株)	東京都千代田区富士見 1-11-21	03-3265-5631
副会長	木下 彰久	(株)木下謹三商店	大阪府大阪市西区江戸堀 3-6-12	06-6443-0115
副会長	木下 一好	中央建材工業(株)	愛知県名古屋市千種区高見 1-6-1	052-761-6181
専務理事	林 伊佐男	(社)全防協	東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル 6F	03-5298-3793
常任理事	青山 英治	安藤工事(株)	福岡県福岡市南区清水 2-9-6	092-561-7012
常任理事	井上 良夫	井上瀝青工業(株)	東京都品川区東五反田 1-8-1	03-3447-3241
常任理事	玉木 道廣	玉木興産(株)	大阪府門真市大字上馬伏 494-3	072-884-5131
常任理事	中村 正雄	中村瀝青工業(株)	東京都荒川区町屋 1-18-8	03-3892-0131
常任理事	丸山 功	新パーレックス工営(株)	東京都新宿区喜久井町 19	03-3202-8196
常任理事	森山 守	アオケン(株)	広島県広島市中区舟入幸町 19-10	082-292-3200
常任理事	山中 健治	瀝青建材(株)	東京都千代田区神田佐久間町 2-4 丸和ビル	03-3861-2706
常任理事	吉田 雅	吉田建設工業(株)	東京都中央区日本橋茅場町 3-7-6 ダヴィンチ茅場町 376 7F	03-3669-5521
理事	市岡 英祐	岡田建材(株)	愛知県名古屋市西区菊井 1-15-1	052-571-7461
理事	奥山 岩男	奥山化工業(株)	東京都中央区銀座 8-4-9 奥山ビル	03-3571-2703
理事	蔭山 雅信	(株)興亜	京都府京都市南区西九条南田町 56	075-672-0161
理事	鹿島喜八郎	(株)O. R. N	東京都豊島区南大塚 3-45-5 第14松伸ビル 3F	03-5992-9601
理事	苅谷 純	(株)マサル	東京都江東区佐賀 1-9-14	03-3643-5859
理事	北川 栄一	北川瀝青工業(株)	石川県金沢市千日町 8-30	076-241-1131
理事	河野 通昭	マルマストリグ(株)	愛媛県今治市北宝来町 4-2-5	0898-32-5001
理事	坂上 達郎	アオケン(株)	福岡県福岡市博多区上牟田 1-18-23	092-411-6511
理事	棚田 肇	棚田建材(株)	兵庫県神戸市灘区友田町 3-2-1	078-841-3551
理事	直江 宏二	東江防水(株)	宮城県仙台市若林区沖野 2-7-1	022-285-1191
理事	濱野 信二	(株)濱建	北海道札幌市中央区北三条東 5 丁目 5 第5濱建ビル	011-261-5676
理事	林田 博之	三星産業(株)	東京都足立区宮城 1 丁目 20-15	03-3912-1262
監事	佐藤 孝之	ビルドプロテック(株)	北海道札幌市清田区美しが丘 2 条 2-1-2	011-884-2885
監事	友田健一郎	友田工業	大阪府大阪市都島区都島中通 3-3-6	06-6921-0331
監事	木村 匡博	(財)建設業振興基金	東京都港区虎ノ門 4-2-12 虎ノ門 4 丁目 MTビル 2 号館	03-5473-4574

### ●北海道支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	濱野 信二	(株)濱建	北海道札幌市中央区北 3 条東 5-5 濱建ビル	011-261-5676
副支部長	小仲 直樹	フクタカ工業(株)	北海道札幌市豊平区西岡 2 条 1-1-46	011-856-4622
副支部長	佐藤 孝之	ビルドプロテック(株)	北海道札幌市清田区美しが丘 2 条 2-1-2	011-884-2885
幹事	片山 英男	日本防水総業(株)	北海道札幌市中央区北 3 条東 4-1	011-231-7511
幹事	中田 敬一	中田工業(株)	北海道千歳市富丘 1-18-3	0123-23-3960
会計監事	佐藤 岩夫	(株)ピーエス防水	北海道札幌市白石区菊水 4 条 1-4-20	011-823-7366

### ●東北支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	直江 宏二	東江防水(株)	宮城県仙台市若林区沖野 2-7-1	022-285-1191
副支部長	森谷 純一	山建工業(株)	山形県山形市流通センター 3-8-1	023-633-3003
副支部長	本吉 和康	(株)丸本工業所	宮城県仙台市泉区市名坂字野蔵 19-3	022-371-9711
幹事	太田 広治	太田防水工業(株)	秋田県秋田市手形字十七流 181-3	018-833-5870
幹事	木村 盛義	(株)青建防水工業	青森県青森市大字新城字山田 675-27	0177-88-4343
幹事	岩崎 淳	(株)トーテック	福島県郡山市喜久田町字菖蒲池 22-464	0249-59-1011
幹事	坂本 理	東北レヂボン(株)	宮城県仙台市宮城野区幸町 3-11-10	022-297-2185
会計監事	安斉 次良	盛岡防水工業(株)	岩手県盛岡市上田字松屋敷 24-5	019-662-5354

## ●関東・甲信支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	中村 正雄	中村瀝青工業(株)	東京都荒川区町屋 1-18-8	03-3892-0131
副支部長	山中 健治	瀝青建材(株)	東京都千代田区神田佐久間町 2-4	03-3861-2706
副支部長	坂田 守夫	坂田工業(株)	長野県長野市稲里町中央 2-5-1	026-286-3751
幹事	神原 陽一	(有)神原防水工業	茨城県猿島郡総和町上辺見 1-2664	0280-31-3333
幹事	茂木 邦好	(株)両毛防水	群馬県伊勢崎市柴町 161	0270-32-1288
幹事	渡辺 忠雄	渡辺建工(株)	栃木県鹿沼市茂呂 336-5	0289-76-0041
幹事	大谷 泰久	サンベル工材(株)	埼玉県上尾市浅間台 1-21-8	048-773-7733
幹事	糠信 英雄	糠信瀝青(株)	千葉県船橋市藤原 6-27-3	0474-38-4511
幹事	丸山 好清	丸山工業(株)	神奈川県横浜市旭区二俣川 1-45-59	045-364-6280
幹事	中沢 龍雄	(有)中沢実業	山梨県甲府市小瀬町 565	055-241-5198
幹事	桑原 成浩	桑原建材(株)	東京都文京区後楽 2-10-3	03-3811-0448
幹事	四家 正勝	ヨツヤウレタン(株)	東京都新宿区中落合 2-11-3	03-3954-2611
幹事	井上 良二	(株)日建企業	東京都世田谷区上祖師谷 3-15-28	03-3326-8531
会計監事	有山幸治郎	日本産業(株)	東京都千代田区麹町 1-6-4 日本産業ビル	03-3264-3911
会計監事	内田 浩文	光栄工業(株)	東京都練馬区上石神井 1-20-5	03-3928-2271

## ●中部支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	木下 一好	中央建材工業(株)	愛知県名古屋市千種区高見 1-6-1	052-761-6181
副支部長	市岡 英祐	岡田建材(株)	愛知県名古屋市西区菊井 1-15-1	052-571-7461
副支部長	堀川 信昭	(株)静岡コーキング工業	静岡県静岡市駿河区西島 821-1	054-281-1618
幹事	高坂 英夫	(株)高坂工業	愛知県名古屋市中村区五反城町 4-31	052-412-0857
幹事	鈴木 正實	(株)中部瀝青	愛知県春日井市六軒屋町 5-158-1	0568-81-2120
幹事	太田 八郎	太田建材(株)	三重県四日市市追分 1-8-16	0593-45-0531
幹事	青木 秀一	協和建材工業(株)	静岡県静岡市清水渋川 3-2-20	0543-45-2221
幹事	永谷 英夫	(資)明光建材	愛知県名古屋市西區城西 5-23-2	052-524-1411
幹事	田中 直樹	(株)中部技研	岐阜県多治見市新富町 2-16	0572-22-7063
会計監事	堤 功	帝国商事(株)	愛知県瀬戸市西山町 1-11	0561-85-2111

## ●北陸支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	北川 栄一	北川瀝青工業(株)	石川県金沢市千日町 8-30	076-241-1131
副支部長	高橋 英樹	茂興業(株)	新潟県新潟市雲雀町 32	025-228-0351
幹事	小島 一夫	(株)小島工務店	富山県高岡市野村 1712	0766-21-2463
幹事	北本 芳則	三友化工(株)	石川県金沢市桜町 19-29	076-221-4133
幹事	房川 正己	新明防水工業(株)	福井県福井市羽水 1-705	0776-34-1313
幹事	稲川 秀雄	丸稲興業(株)	新潟県長岡市石内 2-2-16	0258-33-0668
会計監事	折橋 毅一	(株)折橋政次郎商店	富山県富山市安野屋町 3-1-6	076-420-5344

## ●近畿支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	玉木 道廣	玉木興産(株)	大阪府門真市大字上馬伏 494-3	072-884-5131
副支部長	堤 富佐雄	京都瀝青工業(株)	京都府京都市伏見区中島秋ノ山町 98 番地	075-623-1320
副支部長	中村勝太郎	中村瀝青工業(株)	兵庫県神戸市兵庫区菊水町 10-1-3	078-577-8010
幹事	上田 一郎	(株)大一防水工業	大阪府大東市寺川 2-1-1	072-871-8951
幹事	長谷 克己	(株)長谷建材店	大阪府大阪市住之江区西住之江 2-16-13	06-6671-1952
幹事	春名 滋	昭和化建(株)		072-273-3304
幹事	溝淵 勇	新和化工(株)	大阪府豊中市南桜塚 1-2-1 南桜塚ハイツ 101	06-6843-0356
幹事	山口 治	高分子(株)	大阪府堺市深井北町 3418-1 山善ビル 1号館	072-278-4157
幹事	山崎 睦治	山崎工業(株)	大阪府大阪市淀川区十八条 2-13-5	06-6392-9471
幹事	日下山隆利	(株)ヒゲヤマ	兵庫県宝塚市南ひばりが丘 1-23-4	0797-89-9391
幹事	杉浦 涉	エイ・アール工事(株)	大阪府東大阪市吉松 2-7-19	06-6720-3551
幹事	加藤 一真	シフカー建設防水(株)	京都府京都市北区西賀茂鹿ノ下町 39	075-491-4167
幹事	藤井 達也	(有)藤井技建工業	京都府京都市左京区一乗寺地藏本町 21	075-712-5750
会計監事	八尾 忠良	大日特殊建材工業(株)	大阪府大阪市城東区今福西 4-6-22	06-6939-0156
会計監事	村井 正生	(株)村井工業所	大阪府大阪市生野区田島 5-8-28	06-6757-1725

## ●中国支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	森山 守	アオケン(株)	広島県広島市中区舟入幸町 19-10	082-292-3200
副支部長	長島 隆良	丸福建材工業(株)	広島県広島市中区吉島町 12-18	082-241-6666
幹事	谷岡 清	(株)三洋技建 広島支店	広島県広島市西区庚午南 1-3-30	082-271-9317
幹事	川合 明	(株)カワイ	岡山県倉敷市早高 118-1	086-428-4611
幹事	稲葉 謙二	豊永建材(株)	広島県広島市東区中山西 1-11-14	082-280-1111
幹事	石田 康二	徳山重工業(株)	山口県徳山市遠石 2-7-37	0834-31-2345
会計監事	岡村 秀男	青盛建材(株)	岡山県岡山市下中野 386-2	086-241-1672
会計監事	下川 研夫	和光工業(株)	島根県松江市矢田町 250-213	0852-60-2132

## ●四国支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	河野 通昭	マルマストリグ(株)	愛媛県今治市北宝来町 4-2-5	0898-32-5001
副支部長	井川 清	徳島ゴーレックス工業(株)	徳島県徳島市川内町沖島 612-1	088-665-3811
副支部長	飯間俊一郎	大三工業(株)	香川県高松市本町 1-17	087-851-6811
幹事	大石 省三	(株)日本防水松山工業所	愛媛県松山市石手 1-3-19	089-977-0998
幹事	神崎 保之	(有)高知防水センター	高知県高知市神田吉野 1829	088-831-7324
幹事	遠藤 末次	フルイチ(株)	香川県高松市林町 1752-1	087-868-2617
幹事	塩月 辰男	徳島大三工業(株)	徳島県徳島市北矢三町 1-2-61	088-631-4161
幹事	岸 岩男	岸防水工業(有)	高知県高知市塩屋崎町 2-10-35	088-832-7731
幹事	岩田 旭	岩田建材(株)	愛媛県松山市南高井町 1280-1	089-975-6700
会計監事	山本 省三	(株)山本商会	愛媛県松山市三番町 7-8-1	089-931-6261

## ●九州・沖縄支部役員

役職名	氏名	企業名	会社住所	電話番号
支部長	青山 英治	安藤工事(株)	福岡県福岡市南区清水 2-9-6	092-561-7012
副支部長	坂上 達郎	アオケン(株)	福岡県福岡市博多区上牟田 1-18-23	092-411-6511
副支部長	津上 和由	津上産業(株)	福岡県北九州市八幡西区鷹ノ巣 2-10-19	093-621-2161
幹事	上別府 満	(株)上別府工務所	鹿児島県鹿児島市真砂本町 21-7	099-257-1178
幹事	竹村 照章	西照工業(株)	熊本県熊本市健軍 3-7-40	096-367-4525
幹事	馬場 薫	双葉工業(株)	宮崎県宮崎市村角町中尊 1828-4	0985-24-2917
幹事	栃原 邦男	東洋建工(株)	福岡県福岡市南区野多目 2-3-21	092-501-1366
幹事	高稲 裕	高稲工業(株)	長崎県長崎市大橋町 23-5	095-845-6216
幹事	早田 光夫	草野工業(株)	福岡県北九州市小倉北区霧ヶ丘 1-5-11	093-922-7631
会計監事	進藤 充康	日建工材(株)	福岡県福岡市城南区片江 4-8-8	092-801-7822

## ●お知らせ●

# — 第15回通常総会日程決まる! —

本部の第15回通常総会の開催日が下記の通り決定しました。  
会員の皆様多数のご出席をお願い致します。

開催日：平成18年6月1日(木) (開催時間未定)

開催場所：ホテル グランドパレス

東京都千代田区飯田橋 1-1-1

TEL：03-3264-1111

都営地下鉄新宿線・半蔵門線 九段下駅下車 徒歩3分

営団地下鉄東西線 九段下駅下車 徒歩1分

JR線・都営地下鉄大江戸線 飯田橋駅 徒歩7分

※総会終了後、懇親会を開催いたします。

**(社)全国防水工事業協会 賛助会員名簿 (平成18年1月現在、会員番号順)**

会社名	〒	所在地	電話番号	URL
タイセイ商工(株)	332-0002	埼玉県川口市弥平 3-8-20	048-224-6811	http://www.taiseishoko.co.jp
クラタ産業(株)	263-0001	千葉県千葉市稲毛区長沼原町 805-7	043-258-2225	
長谷川化学工業(株)	276-0022	千葉県八千代市上高野 1384-5	0474-84-7141	http://www.hasegawakagaku.co.jp
宇部興産(株)建設資材カンパニー 建材販売部防水材販売グループ	105-8449	東京都港区芝浦 1-2-1 (シーバンスN館)	03-5419-6203	http://www.ube.co.jp
(株)エイ・アール・センター	103-0001	東京都中央区日本橋小伝馬町 15-18 (日本橋SKビル 6F)	03-5614-6295	http://www.ar-center.co.jp
化研マテリアル(株)	105-0003	東京都港区西新橋 2-35-6 (第3松井ビル)	03-3436-4001	http://www.kaken-material.co.jp
横浜ゴム(株)ハマタイト事業部	254-0014	神奈川県平塚市四之宮 1-7-7	0463-31-3119	http://www.yrc.co.jp/hamatite/
コスモ石油販売(株)コスモアスファルト カンパニー営業部	104-0032	東京都中央区八丁堀 3-3-5	03-3551-8015	http://www.cosmo-as.co.jp
コニシ(株)東京本社ボンド第4事業部	101-0054	東京都千代田区神田錦町 2-3 (竹橋スクエア内)	03-5259-5737	http://www.bond.co.jp/
サンスター技研(株)ケミカル事業部	108-0073	東京都港区三田 1-3-36 (サンスター三田ビル 6F)	03-3457-1985	http://www.sunstar-engineering.com
昭石化工(株)建材事業部	151-0053	東京都渋谷区代々木 1-11-2	03-3320-2005	http://www.shosekikako.co.jp
(株)ダイフレックス営業本部	163-0823	東京都新宿区西新宿 2-4-1 (新宿NSビル 23F)	03-5381-1555	http://www.dyflex.co.jp
ダウ化工(株)東日本営業部	140-0002	東京都品川区東品川 2-2-24 (天王洲セントラルタワー 11F)	03-5460-2371	http://www.dowkakoh.co.jp
田島ルーフィング(株)営業部	101-8579	東京都千代田区岩本町 3-11-13	03-5821-7711	http://www.tajima-roof.jp/
ディックブルーフィング(株)	151-0053	東京都渋谷区代々木 2-11-14 (NKビル 4F)	03-5302-1901	http://www.dpcdpc.com/
東亜合成(株)機能製品事業部	105-8419	東京都港区西新橋 1-14-1	03-3597-7341	http://www.toagosei.co.jp/
GE 東芝シリコン(株)建材営業部	106-0032	東京都港区六本木 6-2-31	03-3479-3501	http://www.getos.co.jp/
東洋ゴム工業(株)建設資材販売部	171-8544	東京都豊島区高田 2-17-22 (目白中野ビル)	03-5955-1256	http://www.toyo-roofing.com
東和工業(株)営業部	174-0043	東京都板橋区坂下 3-29-11	03-3968-2301	http://www.towaltd.co.jp
日新工業(株)営業統括	120-0025	東京都足立区千住東 2-23-4	03-3882-2571	http://www.nisshinkogyo.co.jp
双和化学産業(株)ポリルーフグループ	108-0073	東京都港区三田 3-1-9 (大坂家ビル 7F)	03-5476-2371	http://www.sowa-chem.co.jp/
野口興産(株)	176-8522	東京都練馬区豊玉北 2-16-14	03-3994-5601	http://www.noguchi-kousan.co.jp
(株)フジキ	101-0024	東京都千代田区神田和泉町 1-1-4 (りそな秋葉原ビル 8F)	03-3863-6761	http://www.e-fjk.co.jp
フヨー(株)建材事業部	130-0003	東京都墨田区横川 4-10-9	03-5608-0101	http://www.fuyo-web.co.jp
三井化学産資(株)	113-0034	東京都文京区湯島 3-39-10 (上野THビル 5F)	03-3837-0281	http://www.mitsui-sanshi.co.jp
ロンシール工業(株)防水事業部	130-8570	東京都墨田区緑 4-15-3	03-5600-1866	http://www.lonseal.co.jp/
簡中シート防水(株)業務部	103-0007	東京都中央区日本橋浜町 2丁目31-1 (浜町センタービル 16F)	03-5652-6765	http://www.tsb-tpi.co.jp
旭硝子ポリウレタン建材(株)	104-0033	東京都中央区新川 2-9-2 (マルキョー新川ビル 2F)	03-3297-0341	http://www.saracenu.com/
昭和電工建材(株)	105-0013	東京都港区浜松町 1-7-3	03-5470-3704	http://www.sdk.co.jp/kenzai
(株)イーテック	104-0045	東京都中央区築地 5-6-10 (浜離宮パークサイドプレイス)	03-3546-3523	http://www.etec.jsr.co.jp
三菱化学産資(株)	100-0005	東京都千代田区丸の内 1-8-2 (第一鉄鋼ビル 6F)	03-5293-6609	http://www.yes-mks.co.jp
保土谷建材工業(株)営業部	212-8588	神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2 (興和川崎西口ビル 11F)	044-549-6670	http://www.hodogaya-kenzai.com
(株)K.Cアスカ	231-0006	神奈川県横浜市中区南仲通 3-32-1 (みなとファンタジアビル 6F)	045-211-2801	http://www.kc-asuka.co.jp
静岡瀝青工業(株)	420-0852	静岡県静岡市葵区紺屋町 4-8	054-273-2781	http://www.fuji.ne.jp/~sisureki
ユナイテ(株)	410-0315	静岡県沼津市桃里 112-2	055-967-2185	http://www.unite-inc.com/
新東洋合成(株)	550-0004	大阪府大阪市西区鞠本町 2-9-11 (岡崎橋ビル)	06-6446-6121	http://www.shintoyogosei.com
茶谷産業(株)建材事業部	111-0035	東京都台東区西浅草 1-1-9 (東京支社)	03-3844-6174	http://www.chatani.co.jp/
大泰化工(株)営業本部	566-0072	大阪府摂津市島飼西 3-11-2	072-654-5121	http://www.daitai.co.jp/
東垂工業(株)	581-0056	大阪府八尾市南太子堂 6-4-27	0729-94-5682	http://www.toa-roof.co.jp
(株)日本セメント防水剤製造所	660-0892	兵庫県尼崎市東灘波町 3-26-9	06-6487-1546	http://www.wotaito.co.jp
アーキヤマデ(株)営業本部	564-0053	大阪府吹田市江の木町 24-10	06-6385-1268	http://www.a-yamade.co.jp
岩尾(株)	541-0053	大阪府大阪市中央区本町 3-3-9	06-6251-1555	http://www.iwao-tokyo.co.jp
近畿化研(株)	581-0851	大阪府八尾市上尾町 5-25-105	0729-29-3055	
大関化学工業(株)	658-0041	兵庫県神戸市東灘区住吉南町 1-1-15	078-841-1141	http://www.ozeki-chemical.co.jp
シバタ工業(株)東京支社	101-0054	東京都千代田区神田錦町 1-27 (ロータリービル 3F)	03-3292-3861	http://www.sbt.co.jp/
三ツ星ベルト(株)建設資材事業部	653-0024	兵庫県神戸市長田区浜添通 4丁目 1-21	078-685-5771	http://www.mitsuboshi.co.jp
七王工業(株)	765-0031	香川県善通寺市金蔵寺町 180	0877-62-0951	http://www.nanao-net.co.jp

**(社)全国防水工事業協会 特別会員名簿 (平成18年1月現在、会員番号順)**

団体名	〒	所在地	電話番号	URL
北海道シーリング工事業協同組合	060-0032	北海道札幌市中央区北2条東10-15-28	011-251-3364	http://www.hokusikyuu.or.jp
東北シーリング工事業協同組合	981-3117	宮城県仙台市泉区市名坂字野蔵19-3	022-771-6104	
外壁防水施工団体協議会	105-0003	東京都港区西新橋1-11-8 (丸万5号館3F)	03-3595-2331	
全国イーテック防水工業会	104-0045	東京都中央区築地5-6-10 (浜離宮パークサイドプレイス階イーテック内)	03-3546-3523	
ゴムアスファルト防水工事業協同組合	151-0053	東京都渋谷区代々木1-11-2 (代々木コミュニティビル)	03-3320-2020	
サラセーヌ工業会	104-0033	東京都中央区新川2-9-2 (旭硝子ポリウレタン建材(株)内)	03-3297-0341	
サンロイドDN工業会	103-0007	東京都中央区日本橋浜町2丁目31-1 (浜町センタービル16F箇中シート(株)内)	03-5652-6765	
全国アロンコートアロンウォール 防水工事業協同組合	105-0003	東京都港区西新橋1-11-8 (丸万5号館3F)	03-3595-2331	http://www.zen-aron.or.jp
全国FLコート工業会	151-0053	東京都渋谷区代々木1-11-2 (昭石化工(株)建材事業部内)	03-3320-2005	http://www.shosekikako.co.jp
全国パラテックス防水工事業協同組合	106-0044	東京都港区東麻布1-9-15 (東麻布1丁目ビル7F)	03-3582-8226	
全国パラロン・ケミアスルーフ 防水工事業協同組合	103-0001	東京都中央区日本橋小伝馬町15-18 (日本橋SKビル6F)	03-5614-6295	http://www.ar-center.co.jp
全日本ウレタン工事業協同組合	113-0034	東京都文京区湯島3-39-10 (上野THビル7F)	03-3837-5844	http://www.zenure.or.jp
全日本特殊アスファルト工事業協同組合	174-0043	東京都板橋区坂下3-29-11	03-3965-9831	http://www.zentoku.or.jp/
ダイフレックス防水工事業協同組合	163-0823	東京都新宿区西新宿2-4-1 (新宿NSビル23F階ダイフレックス内)	03-5381-0871	http://www.dyflex.or.jp/
ディックブルーフィング工業会	151-0053	東京都渋谷区代々木2-11-14 (NKビル4Fディックブルーフィング(株)内)	03-5302-1908	http://www.dpia.ne.jp
東西アスファルト事業協同組合	101-8579	東京都千代田区岩本町3-11-13	03-5821-7711	http://www.tozai-as.or.jp
東部アスファルト工事業協同組合	103-0025	東京都中央区日本橋茅場町2-14-5 (石川ビル6F)	03-5640-8785	http://www.tobuas.com/
トーヨー防水工業会	171-8544	東京都豊島区高田2-17-22 (目白中野ビル 東洋ゴム工業(株)内)	03-5955-1256	http://www.toyo-roofing.com
日本アスファルト防水工業協同組合	103-0005	東京都中央区日本橋久松町9-2 (日新中央ビル7F)	03-5644-7651	http://www.nihon-as.or.jp
東日本シーリング工事業協同組合	135-0034	東京都江東区永代2-33-6 (有沢ビル2F)	03-3641-9561	http://www.toushikyo.jp/
東日本セシット工業会	105-0013	東京都港区浜松町1-7-3 (昭和電工建材(株)建設資材営業部内)	03-5470-3704	http://www.ceresit.jp
ロンブルー防水事業協同組合	130-0021	東京都墨田区緑4-15-3 (ロンシールビル1F)	03-5600-4036	http://www.lonproof.or.jp
日立グランドシール会	101-0047	東京都千代田区内神田1-2-8 (橋本第二ビル6F日立化成工材(株)内)	03-5282-5711	
メルトーチ工業会	105-8449	東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館 (宇部興産(株)内)	03-5419-6203	http://www.meltorch.com
常温アスファルト防水事業協同組合	169-0073	東京都新宿区百人町1-4-15 (朝日サウンドビル2-B)	03-3205-2667	
東京都防水工事業協会	101-0025	東京都千代田区神田佐久間町3-38 (第5東ビル)	03-5833-2780	http://www.toboukyo.com
全国ポリルーフ工業会	108-0073	東京都港区三田3-1-9 (大坂家ビル7F 双和化学産業(株)内)	03-5484-3060	http://www.sowa-chem.co.jp/polyroof
ダイヤフォルテ防水工業会	100-8311	東京都千代田区丸の内3-3-1 (新東京ビル明和産業(株)内)	03-3240-9319	http://www.diaforte.jp
神奈川県建設防水事業協同組合	231-0002	神奈川県横浜市中区海岸通り4-17 (東信ビル5F)	045-212-1065	http://www.kanagawa-bousui.com
パンレタン防水工事業協同組合	212-8588	神奈川県川崎市幸区堀川町66-2 (興和川崎西口ビル11F 保土谷建材工業(株)内)	044-549-6675	http://www.hodogaya.co.jp/hcp/Pan/ contents.html
静岡県シーリング工事業協同組合	422-8045	静岡県静岡市駿河区西島821-1 (株静岡コーキング工業内)	054-283-9530	http://www1.ocn.ne.jp/~sskumiai/
新日アスファルト防水事業協同組合	420-0852	静岡県静岡市葵区紺屋町4-8 (静岡瀝青工業(株)内)	054-273-3078	
中部シーリング工事業協同組合	460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内1-2-28 (吉村ビル4F402)	052-201-7086	
富山県シーリング工事業協同組合	930-0071	富山県富山市平吹町4-21 (株丸協内)	076-493-7740	
石川県防水事業協同組合	921-8023	石川県金沢市千日町8-30 (北川瀝青工業(株)内)	076-244-5020	http://www.kenbousui.com/
関西シーリング工事業協同組合	540-0012	大阪府大阪市中央区谷町4丁目4-13 (エフクレスト202号)	06-6946-2226	http://www2.ocn.ne.jp/~kansikyo
西部アスファルト工事業協同組合	550-0002	大阪府大阪市西区江戸堀1-20-11 (辻川ビル)	06-6445-1138	http://www.seibus.jp
全国コンパック工業会	566-0072	大阪府摂津市鳥飼西3-11-2 (大泰化工(株)内)	072-654-5121	http://www.conpack.net/
全日アスファルト防水事業協同組合	555-0034	大阪府大阪市西淀川区福町3-1-50	06-6474-7841	http://www.zennichiasu.jp
東亜アスファルト防水事業協同組合	581-0056	大阪府八尾市南太子堂6-4-27	0729-91-1536	
西日本建設防水協同組合	543-0016	大阪府大阪市天王寺区餌差町7-6	06-6762-4047	
日本セリノール防水事業協同組合	541-0052	大阪府大阪市中央区安土町1-8-15 (野村不動産ビル11F)	06-6271-2340	http://www.japan-cerinol.com
日本パネコート防水事業協同組合	550-0004	大阪府大阪市西区靱本町2-9-11 (新東洋合成(株)内)	06-6446-6121	http://www.shintoyogosei.com/panecoat.htm
日本リベットルーフ防水工事業協同組合	564-0053	大阪府吹田市江の木町24-10 (山出ビル)	06-6385-5758	http://www.rivetroof.com
全国サンタック防水工事業協同組合	564-0052	大阪府吹田市広芝町12-8 (早川ゴム(株)大阪支店内)	06-6386-6531	http://www.santac.or.jp/
関西サラセーヌ工業会	553-0001	大阪府大阪市福島区海老江5-2-2	06-6453-6401	



イサムエラストマー会	532-0035	(大拓ビル4F旭硝子ポリウレタン建材棟内) 大阪府大阪市淀川区三津屋南3-98 (イサム塗料塗料事業内)	06-6308-1365	http://www.isamu.co.jp/
全国ゴーレックス会	541-0053	大阪府大阪市中央区本町3-3-9 (岩尾棟内)	06-6251-1555	
京都防水工事業協会	601-8441	京都府京都市南区西九条南田町56 (株興亜内)	075-662-0194	
ネオ・ルーフィング工業会	653-0024	兵庫県神戸市長田区浜添通4-1-21 (三ツ星ベルト棟内)	078-685-5771	
神戸防水協会	657-0035	兵庫県神戸市灘区友田町3-2-1 (棚田建材棟内)	078-841-3551	
中国シーリング工事業協同組合	730-0013	広島県広島市中区八丁堀1-12 (キョーリンビル)	082-222-7578	
山口県防水工事業協同組合	753-0212	山口県山口市下小鯖字大島3952-11	083-941-3507	
徳島県防水工事業協同組合	771-0142	徳島県徳島市川内町沖島612-1 (徳島ゴーレックス工業棟内)	0886-65-3811	
四国シーリング工事業協同組合	790-0002	愛媛県松山市二番町4-1-5 (愛媛県建築士会館5F)	089-947-2300	
愛媛県防水工事業協同組合	790-0002	愛媛県松山市二番町4-1-5 (愛媛県建築士会館5F)	089-933-5101	
高知県防水工事業協同組合	780-8014	高知県高知市塩屋崎町2-10-35 (岸防水工業内)	088-832-7731	
九州アスファルト工事業協同組合	810-0073	福岡県福岡市中央区舞鶴2-8-2 (村上ビル)	092-713-5263	
(注)福岡県防水工事業協会	810-0073	福岡県福岡市中央区舞鶴2-8-2 (村上ビル)	092-713-5263	
福岡市防水協会	810-0073	福岡県福岡市中央区舞鶴2-8-2 (村上ビル)	092-713-5263	
熊本県防水工事業協会	862-0950	熊本県熊本市水前寺6-38-10 (東ビル3F)	096-387-1778	http://www.kwpa.jp
宮崎県防水工事業協同組合	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町屋形町1230 (石丸ビル2F)	0985-22-1520	http://www.m-bousui.jp
鹿児島県防水工事業協同組合	892-0844	鹿児島県鹿児島市山之口町7-41 (大蔵ビル403号)	099-239-2829	
沖縄県防水施工業協会	903-0804	沖縄県那覇市首里石嶺町4-164-3 (株沖縄装美工業内)	098-887-0674	

## 全防協作成刊行物・ビデオ一覧

(平成18年1月現在)

書籍

ビデオ

新刊

●防水施工法(2005年版)

一般価格8000円 会員価格3500円  
〈B5判555頁〉

●防水工事業経営改善指針

同資料編 建設業の現状と動向  
〈A4判153頁 資料編59頁〉  
一般価格5000円 会員価格3000円

●ルーフィング・イン・アメリカ

—アメリカの防水100年史—  
〈A4判167頁〉  
一般価格4000円 会員価格3600円

〈防水施工管理技術者〉

認定試験受験者用教本

●建築一般と防水施工管理

〈B5判308頁〉  
会員価格7000円

●建築防水の施工管理

〈B5判452頁〉  
会員価格7000円

〈防水施工技能ビデオ〉

●改質アスファルトシート

トーチ工法防水  
一般価格5000円 会員価格3500円  
〈32分〉

●シーリング防水

一般価格5000円 会員価格3500円  
〈21分〉

●塩化ビニル樹脂シート防水

(機械的固定工法) ※〈30分〉  
一般価格5000円 会員価格3500円

●塩化ビニル樹脂シート防水

(接着工法) ※〈32分〉  
一般価格5000円 会員価格3500円

●合成ゴムシート防水

(接着工法) ※〈34分〉  
一般価格5000円 会員価格3500円

〈技能検定対策ビデオ〉

●ウレタン防水施工技術

一般価格5000円 会員価格3500円  
〈27分〉

●セメント系防水施工技術

一般価格5000円 会員価格3500円  
〈22分〉

注: ※は3本セットで会員価格10000円  
送料は全て別途です

●お申し込みは

(社)全国防水工事業協会

TEL 03 (5298) 3793  
FAX 03 (5298) 3795

# 各県防水組合等一覧 (平成18年1月現在)

都道府県	名称	〒番号	所在地	役職名	代表者名	電話番号	FAX番号
北海道	北海道防水工事業団体連合会	060-0032	札幌市中央区北二条東3-2-2 マルタビル札幌4F	会長	佐藤 孝之	011-222-5206	011-222-0046
秋田県	秋田県建築防水工事業組合	010-0851	秋田市手形十七流181-3 太田防水工業(株)内	会長	太田 広治	018-833-5870	018-835-5609
青森県	青森県防水工事業協会	038-0042	青森市大字新城字山田675-27 (株)青建防水工業内	会長	木村 盛義	0177-88-4843	0177-88-4480
岩手県	岩手県防水工事業協同組合	020-0004	盛岡市山岸1-4-17 奥羽工業(株)内	理事長	小林 敏英	019-623-0346	019-623-0347
宮城県	宮城県防水工事業協同組合	983-0836	仙台市宮城野区幸町3-11-10 東北レヂボン(株)内	理事長	葛西 秀樹	022-292-6446	022-292-6447
山形県	山形県防水工事業組合	990-8678	山形市流通センター3-8-1 山建工業(株)内	理事長	森谷 純一	023-633-3003	023-626-1330
福島県	福島県総合防水工事業協同組合	963-8071	郡山市富久山町久保田字前田402 郡山シーリング(株)内	代表理事	八巻 誠一	024-933-4242	024-933-4242
茨城県	茨城県防水工事業連合会	310-8641	水戸市笠原町600-15 (株)奈良屋内	会長	行田 彰邦	029-241-5141	029-243-2074
群馬県	群馬県防水工事業協同組合	371-0805	前橋市南町4丁目4-13	理事長	茂木 邦好	027-223-5303	027-223-5303
栃木県	栃木県建築防水工事業協同組合	321-0345	宇都宮市大谷町1235-7	代表理事	磯 誠	028-652-5020	028-652-5020
埼玉県	埼玉県建設防水工事業協同組合	339-0061	さいたま市岩槻区岩槻5367-3 (株)高信工業内	理事長	大谷 泰久	048-756-1622	048-756-1622
千葉県	千葉県建設防水工事業協同組合	260-0013	千葉市中央区中央4-14-1 千葉不動産ビル4F	理事長	鹿島清太郎	043-222-4751	043-222-4734
(千葉市)	千葉都市防水工事業協同組合	260-0023	千葉市中央区出洲港9-10	理事長	下地 空男	043-242-8531	043-242-8531
東京都	東京都防水工事業協会	101-0025	千代田区神田佐久間町3-38 第5東ビル	会長	山中 健治	03-5833-2780	03-5833-2781
神奈川県	神奈川県建設防水事業協同組合	231-0002	横浜市中区海岸通り4-17 東信ビル5F	理事長	武田 義雄	045-212-1065	045-212-3464
(横浜市)	横浜市防水事業協同組合	231-0012	横浜市中区相生町2-31 相生町中央ビル301	理事長	池上 武忠	045-681-4492	045-681-4493
(川崎市)	川崎市防水工事協力会	210-0914	川崎市幸区大宮町24 メノン柏 (株)神奈川商会内	会長	武田 義雄	044-544-7877	044-544-6975
山梨県	山梨県建設防水協会	400-0836	甲府市小瀬町565 (有)中沢実業内	会長	中沢 龍雄	055-241-5198	055-241-5193
長野県	長野県防水業協会	390-0851	松本市大字島内3501-1	会長	高橋 由弘	0263-48-3501	0263-48-3502
静岡県	静岡県防水工事業協会	424-0061	静岡市清水大内263 不二化成(株)内	会長	横井 剛	0543-45-7401	0543-46-8866
愛知県	東海防水工事業協会	451-0044	名古屋市西区菊井1-15-1 岡田建材(株)内	会長	市岡 英祐	052-571-7611	052-561-2935
三重県							
岐阜県	岐阜県防水業協会	507-0805	多治見市新富町2-16 (株)中部技研内	会長	田中 直樹	0572-22-7063	0572-24-3455
新潟県	新潟県防水工事業協同組合	950-0925	新潟市弁天橋通1-7-4	理事長	高橋 英樹	025-287-2000	025-286-7690
富山県	富山県防水工事業協会	933-0917	高岡市京町11-32 一公工業(株)内	理事長	小島 一元	0766-23-0391	0766-23-0361
石川県	石川県防水事業協同組合	921-8023	金沢市千日町8-30 北川瀝青工業(株)内	理事長	北川 栄一	076-244-5020	076-244-5020
福井県	福井県防水工事協同組合	910-0015	福井市二の宮3-3-6 岡本ビル2F	理事長	房川 正己	0776-23-0669	0776-23-0669
大阪府							
京都府	京都防水工事業協会	601-8441	京都市南区西九条南田町56 (株)興垂内	会長	藤山 雅信	075-662-0194	075-662-0194
滋賀県							
奈良県							
和歌山県	和歌山県防水事業協同組合	640-8319	和歌山市手平1-2-22 生駒労務経営事務所内	理事長	成瀬 宏司	073-424-5723	073-426-5622
兵庫県	神戸防水協会	657-0035	神戸市灘区友田町3-2-1 棚田建材(株)内	会長	中村勝太郎	078-841-3551	078-841-3553
岡山県	岡山県防水工事業協同組合	700-0941	岡山市青江1106-3 コトブキコーポラス102	理事長	岡村 秀男	086-223-6120	086-223-6120
広島県							
山口県	山口県防水工事業協同組合	753-0212	山口市大字下小鯖字大島3592-11	理事長	石田 康二	083-941-3507	083-941-3514
鳥取県	鳥取県防水事業協同組合	680-0864	鳥取市吉成2-7-6 川口工務店テナント内	理事長	安木 恭次	0857-26-1629	0857-26-1629
島根県	島根県防水工事協会	690-0049	松江市袖師町9-20 アオケン(株)山陰支店内	会長	森清 勲	0852-21-9551	0852-27-5559
徳島県	徳島県防水工事業協同組合	771-0142	徳島市川内町沖島612-1 徳島ゴーレックス工業(株)内	理事長	坂口 憲司	088-665-3811	088-665-5228
香川県	香川県防水業協会	760-0066	高松市福岡町2-13-22 マルエ工業(有)内	会長	飯間俊一郎	087-821-8410	087-822-2857
愛媛県	愛媛県防水工事業協同組合	790-0002	松山市二番町4-1-5 愛媛県建築士会館5F	理事長	河野 通昭	089-933-5101	089-933-5186
高知県	高知県防水工事業協同組合	780-8014	高知市塩屋崎町2-10-35 岸防水工業(有)内	理事長	岸 岩男	088-832-7731	088-832-7879
福岡県	(社)福岡県防水工事業協会	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-8-2 村上ビル	会長	早田 光夫	092-713-5263	092-713-5411
(福岡市)	福岡市防水協会	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-8-2 村上ビル	会長	坂上 達郎	092-713-5263	092-713-5411
(北九州市)	北九州市防水工事業協同組合	802-0082	北九州市小倉北区古船場町4-17 近藤ビル2F	理事長	山口 光政	093-531-4607	093-531-4609
大分県	大分県防水工事業協同組合	870-0901	大分市西新地1-9-28 東邦工業(株)内	理事長	伊藤今朝信	097-551-6686	097-551-6675
佐賀県							
長崎県	長崎県防水工事業協同組合	852-8121	長崎市三川町791番地15	理事長	高稲 裕	095-844-8502	095-844-8503
熊本県	熊本県防水工事業協会	862-0950	熊本市水前寺6-38-10 東ビル3F	会長	迫田 隆弘	096-387-1778	096-387-1972
宮崎県	宮崎県防水工事業協同組合	880-0036	宮崎市花ヶ島町屋形町1230 石丸ビル2F	理事長	白地 幸男	0985-22-1520	0985-22-1522
鹿児島県	鹿児島県防水工事業協同組合	892-0844	鹿児島市山之口町7-41 大蔵ビル403	理事長	上別府 満	099-239-2829	099-239-2829
沖縄県	沖縄県防水施工業協会	903-0804	那覇市首里石嶺町4-164-3 (株)沖縄装美工業内	会長	照屋 正元	098-887-0674	098-887-3852

(注)      は特別会員 都道府県の ( ) 内は政令指定都市

● お知らせ ●

# — 第15回通常総会日程決まる! —

本部の第15回通常総会の開催日が下記の通り決定しました。  
会員の皆様多数のご出席をお願い致します。

開催日：平成18年6月1日（木）（開催時間未定）

開催場所：ホテル グランドパレス

東京都千代田区飯田橋 1-1-1

TEL：03-3264-1111

都営地下鉄新宿線・半蔵門線 九段下駅下車 徒歩3分

営団地下鉄東西線 九段下駅下車 徒歩1分

JR線・都営地下鉄大江戸線 飯田橋駅 徒歩7分

※総会終了後、懇親会を開催いたします。